

第40回  
全道造形教育  
研究大会  
苫小牧大会



1990.7.31(火)・8.1(水)  
苫小牧市立若草小学校

## ●大会主題

広がり, 深まり,  
そして感動を!

## ●目 次

講師紹介, 大会日程	1
開会式次第	2
挨拶	2~4
研究主題	5~8
歴代委員長の一言	14
分科会一覧	11~12
提 言	17~75
大会役員一覧	77
各会場案内図	79

## 記念講演

### ●「通俗的芸術論」

講師 秋山祐徳太子氏

1935年、東京の下町に生まれる。

1959年、武蔵野美術大学彫刻科卒業。

中小企業、大手電器メーカーに工業デザイナーとして勤務。

展覧会に自分自身を出品するという行為に出てハプニング（現在のパフォーマンス）を始める。それを（通俗行動）と名づける

いわば馬鹿馬鹿しいといわれていることに大見えをきる・元をあてる・などの活動続ける。

1970年代よりブリキ・トタンによる皇帝、男爵など風刺的な立像を作り続ける。

国内国外にて個展、グループ展多数。

本年9月から来年2月まで四国において大々的な個展を行う。

NHK〔一点中継・作る〕にて制作過程を公開。

NHK教育TV〔日曜美術館〕にて解説。その他テレビ出演多数。

著書に「通俗的芸術論」ポップアートのたたかい。

美術雑誌アトリエにエッセイを連載中。

### ●日程

8:00 9:00 9:30 10:00 11:00 11:30 16:00 17:00

第7 一月 日31 日日	受 付	開基 会 報 式 告	移 動	紙フェス ティバル (昼食)	移 動	分 科 会	移 動	飲 迎 レセ プション
-----------------------	--------	------------------------	--------	----------------------	--------	-------------	--------	----------------------

9:00 10:30 11:30 12:00 12:30

第8 二月 日1 日日	分 科 会	移 動	記 念 講 演	閉 会 式
----------------------	-------------	--------	------------------	-------------

## ———— 40回大会 開 会 式 次 第 ————

	司会進行	苫小牧大会事務局長	鈴木 和 雄
	開会セレモニー	40周年を記念して	池 本 良 三
1.	開 式 の 言 葉	苫小牧大会副委員長	片 桐 勉
2.	旗 掲 げ	北海道造形教育連盟 委員長	金 井 秀 男
		苫小牧大会運営委員長	川 上 宏
3.	祝 辞	胆振教育局長	藤 井 勇 吉
		苫小牧教育委員会 教育長	佐々木 達 雄
4.	来賓・講師紹介	苫小牧大会副委員長	片 桐 勉
5.	オリエンテーション	北海道造形教育連盟研究部長	冨 田 泰
		苫小牧大会研究部長	佐 藤 公 毅
6.	閉 式 の 言 葉	苫小牧大会副委員長	片 桐 勉
	(連絡)		

## ———— 閉 会 式 次 第 ————

	司会進行	苫小牧大会事務局長	鈴木 和 雄
1.	開 式 の 言 葉	苫小牧大会副委員長	内 潟 光 尚
2.	旗 掲 げ	北海道造形教育連盟 委員長	金 井 秀 男
		苫小牧大会実行委員長	池 本 良 三
3.	連盟旗引き継ぎ	次期開催地代表挨拶	札 幌 市
4.	閉 式 の 言 葉	苫小牧大会副委員長	片 桐 勉

## 第40回の“創造の炎”をもやす勇弘の大地へ

— 第40回全道造形教育研究会によせて —

北海道造形教育連盟委員長 金井秀男

はるか太平洋のかなたより吹き来たる風に、草種は高く舞いあがり、勇弘の原野は、その広大かつたおやかな姿を現すのです。朱夏ともなれば草々は相競いて原野を緑に埋めつくし、幾重にも緑のさざなみをつくるのであります。この美しい原野も時には深い霧の呪文の中に消え、馬のいななきばかりが遠くから聞こえるばかりとなります。実に変化に満ちた風土であります。

だからこそ、“広がり”と、“深まり”と、“感動”といった研究のテーマが生みだされたのに違いないのです。

勇弘の大地のように、本研究テーマは大きく、多くの刺激をよびおこします。造形の世界が、どんなに広く果てしなく豊かなものなのか、造形の仕事がいかに深くつきめ魅力を秘めているものか、造形の出発と終りどが、感動からはじまり、感動におわる驚きと欬びに、みちみちしているものなのかを訴えています。

苫小牧市の造形を愛している仲間が、紙という造形材を通して、ものを造る体験を通して、行為の中から、造形を生活の中にとり入れようと試みられている実践態度は、まさに“紙の街苫小牧”をこよなく愛する証でもあります。ここに苫小牧市の造形教育の実践者に、その開拓性、進取性と問題提起に、心より拍手をおくるとともに、全道各地より集いたる造形教育実践者に、勇弘の大地のごときインパクトを与えることでありましょう。第40回の大会が、40年の歴史をもつ本連盟の実践の志向点であることを信じ、期待するものです。

かえりみますと、苫小牧市は本連盟の教育運動の大きな節目に大会地を提供くださいました。昭和43年第18回の大会は、本連盟が他の教育研究民間団体に先がけて“指導の構築”理論を具体的に実践の場で討議くださったのも苫小牧市であり、昭和55年の本連盟30周年記念大会である第30回大会で“創造の炎”をかかけ、実践論を白熱しあったのも苫小牧市でありました。

今回の40回大会も、日本の教育が大きく転換し、変容しはじめる改革の年であります。この中で苫小牧市で大会が開かれることに、大きな感慨をもつものであります。

教育はいうまでもなく、人間に対しての愛から出発して、子どもをそして人間として価値あらしめるように成長発達を援ける仕事であります。そのために造形の仕事から人間を見つめ、造形の仕事を通して人間をはぐくむのであります。そこに、教師は子どもにとってよき援助者であり、またパートナーでなければなりません。

造形することを通して、人間の見方、感じ方、表し方、行い方の中に個人と全体が融合しあう、優れた教育手段であります。それは民族をも越える価値のあるものであります。様々な造形体験を通して、思想を分かち合うという無限の情操能力を反映し、人と人とを結びつけ、高めあう、そんな創造の世界に互いに努力しあいましょう。

ここに、心からご援助いただいた苫小牧市の教育関係者のみなさま、苫小牧市の市民のみなさまに感謝いたします。本大会が必ずや北海道の造形教育実践に、大きなエネルギーを与えることを信じ、ご挨拶いたします。



## “広がり、深まり、そして感動を”

### 共有し得る大会にしたい

苫小牧大会運営委員長 川上 宏

第30回、40目と記念すべき大会を、私たちの街“波濤光り、野鳥舞う、羅道とロマンの工業都市”苫小牧市で開催できますことを、非常に嬉しく、また光栄に思っています。

第30回大会の時のテーマは“広がり”と“深まり”の造形教育を求めて”というものであります。この10年間、苫小牧市造形教育研究会は、このテーマを更に発展させるべく、とりくんで参りました。

今日“広がり、深まり、そして感動を”というテーマを掲げましたことも、まさに10年間の苫小牧市造形教育研究会の歩みを、そのまま公開し、みなさんと共有したいという願いからに他なりません。

“広がり”とは、苫小牧の歴史そのものである紙芝居に、子ども達の創造の翼を地域社会に大きく広げる営みであります。

“深まり”とは、子どもの個性的表現を促す造形教育の充実、という北海道造形教育連盟研究主題と固く結びついた、創造の深化への営みであります。

そして、そこから導き出される感動とは、個別的であると同時に、地域の教育力とひびき合うという、言ってみれば、21世紀の教育を指向する質を包含したものであることを、私達は提起しているつもりです。

今では、隣の町白老町も含めた、広域的イベントとなった、“紙フェスティバル”は、3年前、市教育委員会社会教育課へ届いた一通の投書がきっかけでありました。

私達は、その企画から成功に至るまで、献身的かつ積極的に参加してきましたが、そのこと自体が、テーマ追求の仕事であったのです。

今次研究会では、紙フェスティバル実行委員会の全面的ご支援をいただいています。これに参加する造形教育研究会員は、ひとりひとりが、ここを研究発表公開の場として位置づけしています。今までに経験したことのない、夢いっぱい創造の世界を、参加者の皆さん、そして子ども達と一緒に生み出すべく、必死になって作品製作、あるいは諸準備にとりくんで参りました。充分とは言えないかもしれませんが、私達の意図するところを、お汲みとりいただければ幸いです。

大会のシンボルマークも、30回大会と同じデザインにしました。

“子どもをかえる。教師をかえる。みんなで飛躍する。愛称ビョン子大会である。ふざけたしゃれものは、そしてヒックリかえるという”

とは、30回大会の中での、シンボルマークの解説文です。

これもそっくり、この大会にあてはめたいと思います。参加者の皆さんで、既成概念をヒックリかえし、斬新な発想に富んだ、感動あふれる大会を生み出して参りましょう。

最後に、北海道教育委員会・北海道教育庁旭川教育局並びに苫小牧市教育委員会、苫小牧市幼、小、中、高校長各位の御理解と御援助をいただき、併せ、紙フェスティバル実行委員会、北海道新聞社、苫小牧民報社の全面的御支援の中で開催できましたことを心から感謝申し上げます。なお道連盟の金井委員長をはじめ、役員各位のご協力に厚く御礼申し上げます。全道の仲間の皆さん、どうか、この地に広がる造形教育の姿を、じっくり味わって行って下さい。歓迎の言葉といたします。

## 全道造形教育研究大会

### 苫小牧大会開催に当たって

苫小牧市教育委員会教育長 佐々木 達 雄

第40回という記念すべき全道造形教育研究大会が、本市で開催され全道各地から造形教育の関係者をお迎えすることは、まことに喜ばしいことであり心からご歓迎とお祝いを申し上げます。北海道造形教育研究会におきましては、全道的な視野に立って先進的に本道の造形教育の充実、発展の為に大きくリーダーシップをとられ数々の貴重な実践を積み重ねられておられることに深く敬意を表する次第です。

皆さんでご承知の通り、本市は、広大な勇払原野に囲まれ、北大演習林やバードサンクチュアリーなど豊かな自然環境に恵まれた人口16万の工業都市であります。昭和48年には、文化の薫り高い潤いのある都市づくりとして「人間環境都市」を宣言し、大きな可能性に満ちたこの地に理想の都市を目指しており、自然や風土など造形教育にとって恵まれた環境条件が備わっていると自負しているところであります。

今日、学校教育では、知・徳・体の調和のある人間形成を図り、人間性豊かな児童・生徒の育成に努めておるところですが、学校現場においては今なお様々な課題を抱えている現状にあります。科学技術の高度化・国際化・情報化等の時代を迎え社会は急速に変化しており、経済の成長と共に物質的豊かさの中で児童・生徒の価値観も大きく変化しております。

このような社会に対応していける児童・生徒の育成は、家庭教育はもとより学校教育に課せられた大きな責務であります。学校教育の果たすべき使命の中で、造形教育の目指す情操豊かで、創造性に富む個性的な人間の育成は、知的教育と共に学校教育の重要な役割を果たすものであります。

この複雑で変化していく社会に対応しながら21世紀を生きる児童・生徒には柔軟で創造性に富んだ知性と技能が特に必要であります。その為には、指導者である教師そのものの資質の向上を図らねばなりません。即ち、教師としての豊かな人間性を基盤とした専門的力量や柔軟性に富んだ教育力が非常に大切であります。

今大会は「広がり」と深まりと感動を…」をテーマとして大会が展開されますが、児童・生徒に表現の喜びを味わせ、情操を高め、個々の感性を育てることは、造形教育の根幹であり、大会のわらいそのものであります。どうか、この研究大会が全道の造形教育の充実・発展に寄与され、苫小牧大会が成功裡に終わられることを祈念するものであります。

おわりに当たり北海道造形連盟・苫小牧研究大会運営委員会並びに関係各位のご尽力に深く感謝申し上げます。ご挨拶といたします。

北海道造形教育連盟研究主題

子供の個性的表現を援ける  
造形教育の充実

北海道造形教育連盟研究部

これまでの日本は、「追いつけ、追いこせ」の言葉に象徴されるように、西欧の文化・科学技術・経済に追いつき、それを越すといったところに全てが焦点化され、近代化を図り、西欧先進諸国に続くことを第一の目標とされてきました。

そして、学校教育も上からの統制された政策に糸乱れぬ行動をとってきたと言えます。

その近代において発達した知識や技術を身につけさせ、機能させる能力の養成を行ってきたのです。言い替えると国民は、技能技術的な能力を要求され経済の発展のみに指向された内容と方法でもって、色濃く打ち出された画一的な教育を強いられてきたと言っても過言ではないと思います。

これに対して、目標を達成したといえる80年代に、今日的課題は何かが問われ始めました。今までの歩みが反省され、現実が見つめ直され、これからのことが期待されているところです。そして、21世紀を展望するとき、「過去・現在・未来」を通した大きな理念で方向性が語られることを求められていると思います。

今、地球規模で語られる私たちのこれからの「生き方」は、広義の「教育」というものに強く委ねられています。当然「学校教育」の比重は、その中でも非常に大きいと言わざるを得ません。とりわけ個人的な教育活動で占められる「美術教育」は、その重要性と共に人間としての基本的な行為に裏付けられる活動に位置していることが再認識されているのでしょうか。

時に、「ハイテク時代」であります。

バイオやIC、新素材に代表される最先端技術「ハイテクノロジー」は、人間関係を冷たいものにしてきたと言われます。いわゆる、機械が人間の間に入り込んできたのです。

この冷たい関係をなんとか取り戻そうとしているのも事実です。

「ハイタッチ」がそれであります。

暖かい人間関係を維持するための、人間的な暖かい心の触れ合いや文化的接触のことです。

今日において、この「ハイテク」と「ハイタッチ」は、程よくバランスを保たなくてはならないのは言うまでもありません。

教育のハイテク化が一部の教科で有効であっても、教師の人間性に最終的に求められる教育そのものは、最もなじみにくいものであります。知識の伝達だけであれば、機械がそれをするだけで事が足りるものであります。そして、生活の「ハイテク化」や教育の「ハイテク化」は急速に進んでいます。であれば、そんな中で我々はいかに教育を「ハイタッチ化」しなければならないかを考えねばなりません。





科学技術と経済社会のあまりにも急速で高度な発達、つきつめると人間らしく生きることから遠ざけることにしかその価値を見出すことができないとも言えます。また、その発達は、人間たらしめる心と進む無機的社会との隔たりをぐんぐんと広げるに強い力を発揮しているとも言えます。

私たちに快適な生活を生み、心の安息をもたらしたかにみえたその発達は、人間らしさをなおざりにしてきました。そのことに私たちは、大きな反省のもとに気付いたのです。

しかしながら、「ハイテク化」は、時代の流れです。そして、教育の「ハイテク化」も進んでいます。であればあるほど「ハイタッチ」の教育をしていかなければならないと思います。

造形教育のみならず、今日的大きな課題であり、反省として、教育が教科書重視、教科中心といった流れが過去100余年間あり、国家統制のもと西欧の技術導入、国民の統合を第一の目的としてきたことは語らずとも明白です。とりもなおさずそれは、系統性という枠はめの中で教育が行われてきたと言うことです。

しかし、今日のような社会の急速な流れはますます加速化すると言われています。このような変化に対して主体的に対応するために、生涯にわたって学習を続けなければなりません。

学校教育が、自ら考え主体的に判断し行動する能力を育成する教育へと質的転換を図る時であります。

私たちは、思考力、創造力、直感力を育み、新しい発想を求め、「問題解決の力」ばかりではなく「問題提起の力」の育成に努力しなければなりません。

従って、一人一人の自由でオリジナルな物の見方、考え方、感じ方を重視し、子どもの多様さを受け入れ、それを援助し、個性を生かす指導が求められるのです。

このことは、子ども一人一人の特質（個性）を見とる力量が指導する側に望まれることでもあります。

幼児・児童・生徒が一人一人、自分の個性を生かしながら、生き生きと生きるものとなることを助ける教育とならなければなりません。

今の集団的教育システムのなかで、多くの問題を含みながらも、その方法を考えていくことであります。

また、教育の適時性ととともに、子どもの自ら伸びようとする時期に、それを助け伸ばす教育が必要です。教育を受ける側が自ら伸びようとするのを、教育する側が助けることが「教育」の本来的姿であることを強く認識する必要があります。「教える教育」から「学ぶ教育」へです。

そして、私たちにとって、ものを作り出し、具体的なものに表す内容をもった造形教育は、「子どもの個性的表現を援ける」厳しい仕事であります。

造形教育の特質として、

- 1.新しいイメージを創り出すこと
  - 2.イメージを具体的なものに表すこと
  - 3.創る力、感ずる力を養い人間的なよさ、いみを知ること
- を上げることができます。

造形教育は、これらの特質を、子どもが、頭・心・手の総合的な活動によって喜びに出会い、人間としての“わかる”という心を自ら育てていくことを助けることであります。

このために、いろいろな方策を試みてきたが、今一步というところで低迷していると言わざるを得ません。

子どもの表現するものの中に、私たちの幾つかの反省点があります。

1. 没個性的傾向と作品の画一化
2. 一人一人の子どものとらえがしっくりせず、個性軽視している
3. 教えられることと育てられることが子どもにも構築されていない
4. 子どもをこどもの生活に結びつけたとらえをしていない
5. 手みじかな安易な教材が増えている
6. 造形する態度への要求と寛容についての決断の不足
7. 押し付け型指導に気付いていない

などを上げることができます。

このような低迷と模索は造形教育ばかりではありませんが、教育の在り方を再評価し、私たちの指導の理念の質を整えねばならない時です。

この在り方は各方面からいくつも提案されていますが、先の新指導要領も「急速に発達した科学技術」からの離脱を意図していることも明らかです。教育界の動きの方向上の一いつでもあります。

21世紀にむけての教育の全体方向として考えられることは、

1. 人間形成に必要な基礎的・基本的な生活の習得徹底
2. 学習の喜びと生涯学習の意欲の育成
3. 自己教育力の育成にむけての多様化の推進
4. 国際化・情報化に対応する社会変化への適応性
5. 学習の主体性、学習者の自己表現
6. 教育内容の重点化、精選化
7. 体験学習、地域素材の教材化
8. 総合学習の意義の自覚
9. 学年・学級制度の弾力化
10. 自然や社会環境への学習の場の拡大

です。造形教育の内容も方法も、これらの方向に呼応し、その質の高さが求められます。造形教育の理念としては、目指す子ども一人一人の個性的表現こそが教育の中心課題とならなければなりません。これは、授業観と相俟って、教育の主流になることでありましょう。つまり、

- ・学習者の個々に焦点をあて、学習者自身の学習過程が最大になる、“教える”ことよりも、“学ぶ”ことを強調
- ・学習者を一人の人格者として受容し、感覚と発想をより尊重、自らが追求し、自らが回答すること
- ・個性とオリジナリティ（独創性）を支持、それを育てるための学校の機能は、個人差を拡大し、差異の尊重と認める姿勢づくり
- ・学び方は、体験・経験を通じた発見と探索による学習法の強調と推進
- ・教師は学習のパートナーであり、ガイドになること
- ・指導の個別化と同様に、個人の進歩に対しての個別化と一人一人の進歩の確認

であり、個性や特性に応じる教育を基盤とする造形教育は、以上のような考えに立って進めなければならないでしょう。

以上のような教育の流れをみつめ、本連盟は子どもの個性的表現の援助のための実践をより深めていかなければならないと考えます。

1. 子どもの生活の見つめ直しと読取りを深め、生活のとらえの研究
2. 教材の再吟味（評価と有効性）とその実践
3. 個に応じた教材・教具の研究
4. 教えるもの、育てるものの分析とアプローチを多様化し、新しい指導方法の研究
5. 材料体験を豊かにし、連続性・連鎖性のある題材構成（単元構成）の研究

#### 6.新指導要領に対してのひとつの意見をもつ理論研究の推進

#### 7.地域性を生かした造形教育環境の改善研究

私たちの本連盟は、これらの教育実践ばかりではなく、造形活動が一生を通して続いていくものという考えを基本にし、また、造形家・芸術家の苦しみ・努力・喜びを味わえ、本来持っている人間としての心身の調和を目指したいものであります。

これからの私たちの実践課題は、前述を十分にとらえた上で、柱とする中心的視点は、教材づくりであります。流れに対応する教材と指導を一つの理論のもとに、早急につくり整えねばなりません。

実践の視点として、

- 1.自らの考えを生かし楽しむことを目的とし「思いのままに表現する教材と指導」
- 2.いろいろな表現方法に気付かせ「制作の方法を広げる教材と指導」
- 3.一人一人がその「個性に基づいてこだわり探究する教材と指導」
- 4.従来の「領域や分野の枠から離脱を図る教材と指導」
- 5.生活科の手段としての造形活動を越えた、「目的約造形活動の造形あそびの教材と指導」
- 6.参考作品的鑑賞活動から、「感性が対話する生きた営みのある鑑賞指導と教材化」

を提言します。

私たちの日常実践は、子どもの実態、地域の特性に応じて常に変わり得るものであります。子どもの個性を中核として進めようとする造形活動は、その発達段階の中に何を投げ込めば大きく膨らみ、大きく成長するのかといった視点で、教材の一層の精選を図り、子どもの美術的成長と人間としての手仕事と生活を高めるための努力を更に進めなければなりません。

造形教育に携わる者は以上のことをふまえ、一人一人の生き方に焦点を当て、造形活動が学校生活の中で生き、その学級をつくり高めるものとして位置づけると共に、学校づくりに貢献し、教育が子どもの手に戻すように精選しなければなりません。何かを学び通した時に「学び方」が残るといわれます。言い替えると「造形するという活動」が残る、それは生き方につながるものと考えます。人間（子ども）が人間らしく成長するために、造形教育に携わる教師は、最も大きな役割を担っていることを自覚し、互いに研鑽する中で進めていきたいと思います。

(文責連盟研究部長 富田 泰)

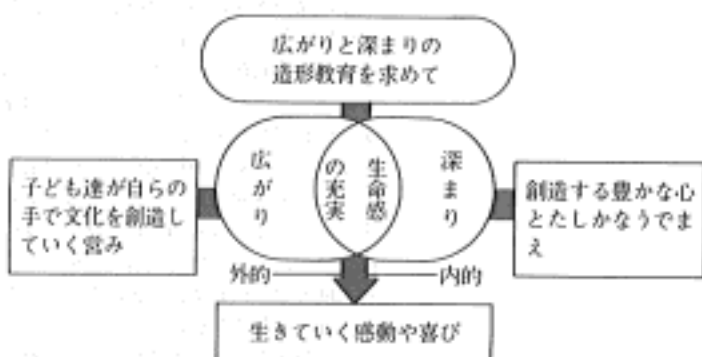
## ●研究主題

# 広がり，深まり， そして感動を！

苫小牧市造形教育研究部会

苫小牧市造形教育研究部会は“広がり”と“深まり”の造形教育を研究主題に第30回大会を当市で開催し、全道各地の先生方から私達の実践研究の方向のために助言と励ましを頂いた。“広がり”と“深まり”のために私達は実技研修、実践交流をくり返し、現在に到っている。この“広がり”と“深まり”の中身は社会の移り変わりによって変化しつつあるが、造形教育の両輪であるという考え方は変わらない。

広がり”と“深まり”の相関図（第30回大会研究紀要より）



今大会では“広がり、深まり、そして感動を！”を研究主題に今までの実践の成果が子どもにとっても、指導者にとっても感動を生むことができることを願うのです。また、私達は全道造形教育連盟の研究主題“子どもに個性的表現を授ける造形教育の充実”をくみ取り、研修の推進をしてきたところです。

ふり返れば10年前、経済の高度成長にかげりが見えたかに思えたが、安定した成長を続けた。現在、金余り現象が生じ、経済摩擦、地価高騰、地方へ、外国へと金が流れ自然は変えられていく。さらに情報化、流通の拡大、ハイテク化が進み、物の豊かさはあるが、人らしさが失われ、心の豊かさが叫ばれている今日です。又、教育課程も10年ぶりに改定され、新しい教育の移行期である。21世紀へ向けて、今、造形教育で何を子どもたちに力として育てるのか。造形教育の質が問われている時です。

造形教育では子ども一人ひとりの個人的で内的な人間性の発露を表現のエネルギーとして行われる。この創造する豊かな心と確かなうでまえを育てようとする深まりの部分が一方向にあります。もう一つは体験的な活動を通して「もの」との関わりを実体得し、もの人間、自然と人間、人間と人間と広がり、他を意識し社会性が育てられる。さらに子ども自らの手で環境を変えていこうとする文化創造の外へ向かう広がり”の二面性が考えられるのです。個が集団の中で生かされ認められた時、感動を持って生き



る力となるであろう。

次に造形教育における広がりや深まりの部分について、それぞれ現状を捉えながら考えを述べていきたい。

深まりの部分で個別制作を通して上手な作品ができることを目的とした造形教育があります。上手な絵を書かせる指導、技術指導重視の造形教育が強く行われ、その結果、才能教科と特殊視することはなかったでしょうか。私達は今までの教育において、造形教育も含めて専門化、高度化、細分化という“ひずみ”を生じさせたのです。人間性をじかに扱う造形教育において、一人ひとりの子どもの個性を考えると、それぞれの作品がそれぞれに価値あるものなのです。さらに個の成長、身に付けなければならない力が変わりつつあります。造形教育で作品をつくるための知識や技能を身に付けると共に情意面が強調されています。やる気とか意欲のことで、造形教育を通して一つの課題に対して反応し、構想をねり、計画し準備をする。強い意志と集中力とがんばりで制作を続けるという一連の働きが、人の一生の生きる力に生かされるだろうと考えるのです。直感力、想像力、論理的思考力、創意工夫する力などがどの過程の、どの部分で育てられるのか、授業の構造化、指導と評価の関係などについて考えていくことが大切になります。さらにこのことは一生の学習、生涯学習の礎となるように深めさせたい。今の子どもは、与えられることに慣れていて、知識は肥大し、受動的になっています。手や身体を使って、試行錯誤し、実際的で即物的な自己表現としての造形活動が、今、必要なのです。子どもの適時性をとれえながら人間としての発達課題を確かな力として育てていかなければなりません。そのことは、一人ひとりが個性を発揮する基盤としての基礎・基本の技術を身に付けることと相俟って、自分という人間の形象化をめざす活動、一人ひとりがそれぞれに輝き、他とは異なる持ち味をさめ細かく見きわめ気付け個性を伸ばす造形教育をめざした。豊かな心を育て、人間形成と創造性を伸長し、文化の充実のために教師自身が真に人間性豊かにして、一人ひとりの子どもの個性を生かすために原点に立たなければならない。

- ①技術主義、作品主義になっていないか。
- ②高度な表現を子どもに要求していないか。
- ③教師側のイメージするものに近づかせていないか。
- ④一人ひとりの意図を大切に、個性を尊重したか。
- ⑤鑑賞を通して表現と人間を考えさせたか。
- ⑥多面的観点から評価をしたか。

知識内容の教育が集中的であるのに対して個性を大切にすることは拡散的教育ということになります。子どもの一人ひとりの個性が深まることを願うわけですが、それだけでは人間として社会という集団の中で生きていくためには不備があります。人間としての共感的理解力が必要です。他者を知り認め合うという社会性を培うことが大切になります。造形活動の営みの中で周りの人とふれ合うことの意味がここにあります。芸術家が作品をつくり、発表したとき鑑賞者に共感と共鳴を得たときの喜びは大きい。子どもにとって制作の途中でも、作品が完成した時でも、他者の良さに気付き、個性を認め合うという周りとのふれ合いの社会性が大切になる。このことが造形教育における広がり部分と考えます。この意味において鑑賞能力、態度の育成が意図的に行われることが必要になります。授業での作品のとり上げ方、作品展示の工夫と充実、学校生活、地域の環境への働きかけなど、あらゆる場面においてなされるのです。さらに個性を尊重し、生かしながら発展学習としての共同制作が再認識されます。集団の美、個性の競合、響き合いや調和のために自分のなすべきことの自覚、学校、地

地域の行事への参加など総合学習の場が必要になります。このことは深まりの部分で述べた“ひずみ”を解決する一つの方法でもあるわけです。造形遊びを通して学年の枠をはずした造形活動、他教科と関連を考えた造形活動、地域の身近な材料での造形活動、作品展の企画と運営、学校行事の飾りつけや作品製作と学級活動など広がって行きます。個を生かしながら個性を認め合うなかで学級、学年、学校、地域へと造形活動が広がり、集団の意識、連帯感、社会性を育てることが、私達のもう一つの使命だと思えます。このことは子どもたちが教室から飛び出し多くのひとから、多くの場で学ぶという自覚が私達教師に謙虚に求められていることになるわけです。いわゆる“開かれた学校”の意識です。またそのことは文化を創造することになります。個の文化と集団の文化が相互に融合して豊かなものに育っていくことを願うのです。その感動が生きる力になるのです。

21世紀に生きる子どもたちに造形活動を通して“深まり”で一人ひとりの個性を育て、“広がり”で集団の文化を育てることが苫小牧大会での私達の考えです。

分科会研究討議の視点

1. 造形教育における広がりの部分の考え方や実践例について交流する。
2. 造形教育における深まりの部分の教材観、指導法、評価などについて交流をする。

## ●研究主題資料

### 広がりへの造形活動としての“紙フェスティバル”

昨年の7月28日付の北海道新聞“今日の話”に次の記事が掲載された。私達の“広がりへの造形活動”の実践である、紙フェスティバルの概要を御理解いただきたい。

#### 紙フェス

体の何倍もある紙で折り紙に挑戦する子、ペーパークラフトのウサギ作りに興中する子、色とりどりの紙を手に、どのひとみも輝いていた。

紙の街、苫小牧で誕生した“紙フェスティバル”の二回目。第一回の自粛ムードの中での試走から大きく飛躍し、市総合体育館に集まったのはざっと四千人。自由に創(つ)る喜び、楽しさにひたっていた。

ユニークな紙一色のこの催しは、一市民の「地元で生産されたばかりの巨大な紙で、子供たちの夢の表現を」の提案がきっかけだった。

入口には一(つ)近い新聞原紙巻き取りが展示され、はまなす国体を盛り上げるフェンシング・テニスの美しい紙人形も飾られている。

場内には、さまざまな造形を試みるコーナーが設けられ、子供の夢がはじける。手すきの紙づくりを学ぶ一角では、心配げな親の表情をよそに原料をすくい上げ完成した紙を掲げる幼児の姿が印象的。

初登場の紙スキージャンプ選手権大会では苦心作のジャンパーを手に行列ができ、ひと飛びごとに歓声が沸く。

紙フェスは隣の白老会場でもあり、一足先に約五百人が参加して開催されたが、子供が主役とはいえ、三つの製紙工場はもちろん各企業、先生たちの影の力は大きい。来年七月に苫小牧で開かれる全道造形教育研究大会の折には道内の美術の先生に参加してもらおう計画も。

最近では、単にお祭り騒ぎだけのイベントも多い。紙フェスはささやかな試みだが、「創りながら、遊ぶ楽しさを味わおう」というわらいは実を結びつつある。さらに多くの人が飛び入り参加し、紙との親し



みを深めていく中から、今はやりの「ふるさと創生」への芽生えも期待できるだろう。(略)

#### 紙フェスティバル '90開催要項 (抄)

**趣旨** 次代を担う苫小牧・白老をはじめとする郷土の子供達に制作の喜びと感動を与え心の豊かさを育むと共に人々が交流を深め、明るく活力あるまちづくりをすすめるため、紙のまちにふさわしいイベントとして、紙フェスティバルを開催する。

**主催** 紙フェスティバル '90実行委員会

北海道新聞社苫小牧支社

北海道造形教育連盟

**後援** 苫小牧市、苫小牧市教育委員会、苫小牧商工会議所、同青年会議所、白老町、白老町教育委員会、白老商工会、同青年会議所、苫小牧市造形教育研究会、苫小牧私立幼稚園連合会、白老町教育研究会、UHB、STV、HBCなど

**協賛** 王子製紙株式会社苫小牧工場

山陽国策パルプ株式会社勇払工場

大昭和製紙株式会社白老工場

ホクシー株式会社苫小牧工場

**日時・会場** (略)

**内容** ①紙の作品づくりコーナー

②デモンストレーション

③展示コーナー

④体験コーナー

⑤ゲームコーナー

**会場設営** (略)

苫小牧造形教育研究会の私達は各コーナーへ参加します。学校行事などの総合学習の実践発表・紙の教材開発・授業実践の発表・奉仕活動・郷土理解等の教育の場と考えるからです。さらに学校の枠をとり除き、地域の子ども達に教育するという広がりを考えるからです。また、子どもの側から考えると地域の多くの人々から教育を受けるということになります。教育環境が広がるのです。さらに郷土の文化の創造の担い手となるのです。当実行委員会にも多くの先生方が参加しています。紙の教材としての特長と限界・系統性・創造性と破壊性など、研修をさらに深め、地域のイベントが充実したものになるよう努力していきたい。

## ●歴代委員長



### 連盟40年の思い出 あれこれ

第4代委員長 和田芳郎

全道造形教育苦小牧大会が、皆様のたゆみない努力の結果として、実りあるものと心から期待し、その成功を期待いたしております。

私は、昭和48年に退職し、18年を経過し、78才をこしの5月に越えました。お蔭で、からだの部分的故障はいなめませんが、気持ちだけは若いような気がしておりますが、自我自信のようです。

北海道造形教育連盟創成期は、組織作りのこと・資金作りのこと・連盟の目的・内容・運営等多くの問題を含み乍ら発足いたしました。

野村、新妻、赤石の歴代委員長は、既に他界されましたが、それぞれの方々が個性豊かな運営に献身的努力をいたされました。野村先生が札幌西病院で、目をおとされる数日前、お見舞に出かけました時、私の手を握りしめて「和田君、頑張れや」と鼓のなくような声を出したことが、いつまでも目頭から忘れられません。初代委員長として本当に深い愛情をもち、人を育て、連盟を育てて下さいました。又、札幌市に理工科畑から校長が生まれたのも、この人が最初でした。

連盟全道大会は全道の各地に、又全国大会も盛大に開かれました。集まるたびに酒を飲み、酒を飲んで激論をとばし、連盟というものは酒を飲む会だと一生懸命飲み、わめきました。私の時の、全道大会の懇労会はブラネット（安いキャバレー）で、貸切りでいたしました。



### 思い出のうちで

第5代委員長 伊東将夫

連盟40年の思い出を述べてほしいとお申し越してしたので、何か当時の印象深い事柄などを考えてみましたが、現職を退いて既に20年近くになり頭脳の回転もおぼつかなく、こもごもの追憶が錯綜し、とても正確な記述にはならないことをご容赦くださるよう。私も今年は喜寿を迎えるに到りました。

昭和29年札幌に転出しましたが、初代委員長、2代委員長になった野村、新妻先生などの温かいお心から快く連盟本部の一員として迎えて頂きました。まず昭和31年、第9回全国大会でよい洗礼を受け、本気になって連盟の中でお役に立ちたいものだと心に決めました。昭和34年に造形連盟の呼称に変わりましたが、このあたりから広い視野の芸術教育的研究の端初となりつつあったように記憶しております。印象深いのは「指導の構築」の発想のもと連盟本部の核になる本質論の研究として、又これが広く現場の皆さんの実践の筋書きとしての一助となればとの思いをこめたものでした。

当時私も研究の部署にありましたので、若い皆さんと共に毎夜会合をし、おそくまで討論しました。昭和42年に「構築」の第一集を刊行し、函館、苫小牧などの大会をこのテーマで現場化のチャンスといたしました。

何はあれ、若い人たちの激しい討論と行動こそ連盟の生命であると…。







## 指導の構築の思い出

第6代委員長 高橋 栄吉

指導要領も改訂を行って、子ども達の自主性、個性を助長する為に、教材も子ども達の生活環境の中から選び、教師はその発想から表現・評価までこれを助長すべく、決して先に立って行くのではなく、子ども達が先頭を切って、豊かな発想をもって創造的に、イデオロギーやアイデアを切り開いてゆくための助言を行うこととしたのである。

つまり、自分自身が本当に実感としてこうありたいと、自分の経験活動を通して感じたことをその発想の元にするのでありたい。そのためには、どのような構えと表現手段をもってゆかなければならないかを真剣に、然もじっくりと考えなければならないというわけである。馬が水を飲む為に首に縄をつないで引っ張ってゆくのではないのである。

今から十数年前、私が連盟の研究部長を拝命した頃は、教材はすでにカリキュラムで決められていて、これが幼・小・中・高では、いかなる発想に展開されるべきか、そしてどのような構想を構えるか、表現手段方法はどのような方法でやられるのかを各学校、各担任が実際の授業の体験を通して約6年位継続し、東京書籍の分室を夜間借用して計画的に行ったのである。これが全国大会東京大会・国際美術教育会議にて発表し好評を得たのであるが、このたびの指導要領の改訂では、生活環境から児童・生徒自身が選び出すことになったのである。折角頑張ってほしいです。



## 「炎」ともえて

第7代委員長 辻 悦平

連盟事務局長6年、委員長4年、燃えにもえた10年であった。実質的には造形教育連盟再生をかけた10年でもあったように思う。

昭和52年7月猛暑の第30回全国大会（第27回全道大会）は、幼稚園3、保育園2、小学校2、中学校1、高校1、全体会場（札幌厚生年金会館）、全国代議員会場（大通小）という実に11会場を持つ大きな大会であった。実行委員長を務めた私は、目がくぼみ、体重が4kgほど減って皆さんに大変心配をかけた。大会直後、有珠山の噴火があり札幌の街も火山灰で白くおおわれたことを想い出す。本当にむし暑い夏の大会であった。

造形教育連盟は此のあたりから、再びすばらしい活力ある連盟にと炎えあがっていったのである。

現在も続いている北海道教育美術展、北海道立造形展の誕生をはじめ数多くの関連行事の誕生をみることができ、そのことが私連仲間の意欲をかきたて、和を広げる活力の一つにもなってきた。

連盟30年誌（創造の炎）の発刊をして全道に配付、又全道代表者の皆さんに、関連機関各位を交えて30周年祝賀会（札幌会館）等も助目の責任者であった私としては忘れられない思い出であり、数年続けて発刊した研究紀要にも、その想いをはせる。

きれめなく実施される全道大会。連盟40周年感無量である…。



## 連盟そして指導の構築

第8代委員長 遠藤久男

苫小牧大会が、連盟40年という節目の開催となった事は、誠に喜ばしく心からお祝い申し上げます。

この、連盟40年の歴史と伝統の中で、全道のみなさんとご一緒出来たことを誇らしく思うと共に、全道大会で多くの美術教師と知己を得、また公開授業や分科会から数々のご教示を受けたことも、私には大きな所産となりました。ここに、深く感謝申し上げます。

苫小牧は3度目と思いますが、出会いは本部が提唱した指導の構築の理論と実践検証が、函館大会に続いて2年目の研究だった。この指導の構築は私が本部入りした当初の課題でしたから、函館・苫小牧には鮮烈な印象をもっています。造形能力の体系表・学習内容の系統表の試案を軸に、子どもの造形能力とは何かを探って3年、更に教材の在り方・学習活動の組み立てと、指導法の確立を図る必然として提唱されたのが指導の構築論であったと理解している。本部のこの研究は、作品を持ち込んでの実践検証を通し論理が展開された。その討論は実に激しく反発と共鳴を繰り返して深夜に及び、目を重ねる中に薄暗い居酒屋で延長戦もある。しかし新参者の私には美術教師の自覚を確かにした時期でもあります。今は現職から離れて居ますが、当時を忍び研究紀要第1集「指導の構築」を手にして懐かしく思いながら、連盟の偉大さを改めて感じております。



## 連盟40年の思い出

第9代委員長 種市誠次郎

昭和43年、第18回苫小牧大会で「指導の構築を具体化するための教材の新しいとらえ方」に私はパネルディスカッションに出ました。分科会でも造形能力について語った記憶があります。又、30回大会（若草小）も盛大に行われ、私は大会顧問の末席をけがしましたが、研究大会が勿論大成功、後のホテルニューオータニのパーティも楽しく、池木氏のウクレレを聞き、玉ねぎのあえもので飲む酒の味はひとしおでした。加藤先生や金子先生や多くの方々にお世話になりました。これ等の研究理論の根拠となる能力表と学習内容表等の研究に、6年かかり紀要の第1集は42年に出しましたが、指導の組み立てや評価の基準に今でも利用されています。

連盟にも財政危機の時があり大会も開けず、札幌でゼミをやっすませたこともあります。神宮を全館借り、そこに泊りがけの研究会も忘れられません。55年に連盟仲間でヨーロッパ美術教育の視察も楽しい思い出の一つです。連盟の会計でも苦勞はありましたが地区の方々と接触し、とてもよかったと思っております。

委員長時代は、札幌、函館と大会を実施し、その後旭川や校別にもお願いしましたが、旭川の全国大会は1年の準備期間で頭が下がります。いずれの大会にも厚く感謝しお礼申し上げます。出会いの喜びを感じています。



## 遊び心を大切にする造形教育を

第10代委員長 森川 照 夫

図工美術教師は、子どもからのメッセージを受け入れ、するどく読み取る感覚が必要です。他の教科と違って、その子の個性、感性、独創性などを見つけてやれるのは、図工美術教師だけかもしれないからです。

やっと、今までの教科からはみ出ているものが、大切だということがわかってきました。そして、教育の中に「遊ぶ力」を取り入れることが、大変効果的であることも、やっと気がついてくれました。それは「遊び」によってもたらされる「学ぶ力」の特色は、想像性や創造性を豊かに増進させる力があるからです。

あわただしい、あり余る物質に囲まれているこの時代に、ふと見つけた美しさに感動し、表現しようとする心のゆとりを忘れてはいけません。創造性とはつまりいたずら心や遊び心から生まれてくるからです。

今まで造形の仲間たちから教えられ、学べたことを幸せに思っています。素晴らしい大会の成果がこの地に残り、北国の子どもたちに、真の遊び心や造形する喜びがわかり、生きる幸せに気づいてくれたら嬉しいことです。

短い任期中、全国大会を旭川市で開催させて頂いたことを忘れません。あの時の強い力添えを頂いた多くの方々に、心から感謝申し上げます。

## 連盟40年のまん中ころ

第11代委員長 松 島 輝 男

連盟40年といいますが、私などは後半の20年が実質的な活動の場であったかと思えます。それでも、新妻先生の鴨緑江藤も聞いた（見た？）し、野村先生の百面相は度々拝見してますから、結構古い付き合いということでしょうか。そういえば、連盟20年誌に何か書かされた記憶があるので、やはり20年を越えるお付き合いということになります。お付き合いというよりは、鍛え育ててくれた連盟であり、私が今日ある背景の中では一番大きなスペースを占めるのが連盟でありました。

丁度、伊東符夫先生と入れ代わりに関西小学校へ赴任した頃から、常任委員に加えていただきました。

当時は、まだ珍しい版紙凹版の仕事や、紙版面の切り並べ版などに夢中になっていた頃でした。

全道大会で、版紙凹版の授業を公開した時、子ども達がどンドン作業を進め、版にインクを詰めて拭き取り、プレスにかけるあたりから参観の先生方から声があり、「拭き取ってどうしてうつるんですか」と聞かれ、授業はそっこのけで参観の先生方に説明するだけで授業が終わってしまったというようなノンビリした時代でした。

また、紙版面の切り並べ版の作品を見た美術の専門の先生から、「どうして回りが白くうつるの?」という素朴な質問に目を白黒したことなど、今思えばおらかな時代でした。しかし、実際の常任委員会は誠に厳しいもので大勢の論客の中で小さくなっていた姿をなつかしんでいるこの頃です。

# 提 言

## ●分 科 会

テーマ	校 種	提 言 者	司 会 者	記 録 者	
地域や学校行事とむすびつく造形活動 (広がりの造形活動)	幼稚園	佐藤 尚美 (苫小牧・澄川) 今 佳子 (札幌・平和) 菅 紀子 ( * )	八嶋 麻紀 (苫小牧・澄川) 細川 依子 (札幌・清川)	高田多恵子 (苫小牧・澄川) 小林 郁子 ( * )	
	小学A	宮森 俊治 (苫小牧・北北) 飯塚 礼二 (旭 川・本広) 佐藤 修司 (旭 川・緑野)	藤原 誠司 (苫小牧・澄川) 高野 亮 (旭川・江丹町)	千葉 恵一 (苫小牧・緑小) 苫米地明彦 ( * )	
	小学B	鴻江 茂 (苫小牧・美園) 笠原 金一 (網走・白老小) 渡辺 貞之 (深 川・菊水)	金子 正 (苫小牧・美園) 内田 暢一 (美 瑠・峰越)	千葉世津子 (苫小牧・新水) 島田 信子 (苫小牧・美園)	
	中学A	遠藤 秀二 (苫小牧・豊川) 小西 三雄 (帯広・八千代)	中根 一彦 (苫小牧・豊川) 宮沢 克忠 (帯広・第6中)	佐藤 宏茂 (苫小牧・豊川) 千葉 光弘 (網走・白老中)	
	中学B	佐藤 真幸 (苫小牧・光洋) 佐藤富貴子 (室 積・北谷)	森 康博 (苫小牧・光洋) 佐藤 光雄 (室積・御前水)	山日 忠 (苫小牧・豊北) 広瀬 美佳 (苫小牧・勇扶)	
	高 校	小林 智彦 (札幌・南高) 成田 俊哉 (苫小牧・西高)	中田 千年 (札幌・緑野高) 横山 和郎 (苫小牧・東高)	佐藤 康幸 (苫小牧・工業高) 木村 美子 (白老・道桜高)	
	新しい視点で 造形活動 (深まりの活動)	小学校	徳田幸次郎 (苫小牧・豊川) 島田 茂 (千 歳・信濃)	大村 昇二 (苫小牧・錦町) 住友 俊郎 (恵庭・恵庭小)	川村 友子 (苫小牧・豊川) 吉本登志枝 (苫小牧・勇扶)
		中学校	吉田とし子 (苫小牧・旭陽) 本多 正機 (札幌・北野)	佐藤 公毅 (苫小牧・旭陽) 片桐 勉 (苫小牧・東中)	坂東 軍治 (苫小牧・豊北) 藤田 利生 (苫小牧・豊生)

身近にある自然物を使って造形的遊びの実践から

学校名 苫小牧澄川幼稚園  
氏名 佐藤 尚美

1. はじめに

幼稚園の近くには小高い山があったり、川が流れていたり、大変自然に恵まれた所に位置していたが、然最近では周辺は宅地造成やゴルフ場と自然が失われつつあるが出来るだけ子供たちに触れさせたり時には造形的活動に利用したりしている。

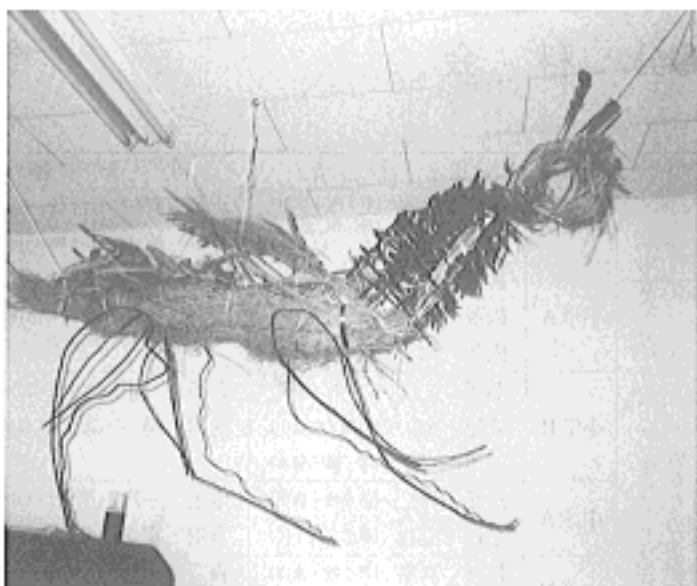
2. 実践の概要

(1) わらい

近くに生えている、トクサを使って、表現活動を行う。

(2) 計画、方法

- ・クラス全員で、近くの野原に行き、トクサを観察しめいてみる。(過去のスギナとりを思い浮かべる)
- ・出来るだけ長くぬく(ひっぱり方に注意)
- ・沢山とってくる



(3) 実践

- ・トクサと遊ぶ  
まずひっぱってみたり、折りまげてみたり、つなげてみたりしてみる。  
つなげるにはどうしたらよいか工夫する。折りまげるところは節ではないところがよい事に気づかせる。  
沢山つないでみよう。何が出来るかなあ。  
全員がトクサと取りくみ、熱中できるように。そして新しい考えが浮か



ぶ表現力を養いたい。 つなげる時はセロテープを使用する。

## たんぼぼのつなげ方

### 遊ぶ材料主のまじり



### 3. 実践のまとめ

5月のたんぼぼ摘みの時よりは随分と積極的に取り組む様になり、色々な考えが浮かび、なかなかむずかしいものに挑戦する子どももできた。今後は、とうきびの皮、がまの葉、すすき、ほおづき等を取り上げ、ほおづき人形とか、又、組合せて共同製作的なものまでに発展させてゆきたい。ハサミ等も紙ばかりでなく色々なものを切る時につかえるのだなあという事

もわかってきたようである。

セロテープの使い方はまだまだ回数を重ねて上手にしたい。

出来上がった作品は、ひもにつりさげてみたり、画用紙の上に立たせてみたりして、全員であってこしたりする。



〈主題〉

目的を持った造形遊びを進める過程で、  
子どもの主体的な活動を、どのように  
引き出し、盛り上げたらよいか。

— セタフェスティバルとM. T. (マザーズ・  
ティーチャー) 活動から見る実践発表 —

(札幌)

幼稚園名 学校法人 山の手学園 平和幼稚園  
氏 名 今 佳 子

## 1. 研究主題について

幼稚園教育要領の改訂が行われ、絵画製作・造形は領域“表現”の中に示されるようになった。この新しい領域“表現”は子どものさまざまな生活(遊び)の中で、美しいものに出会い、感じたことや考えたことをいろいろな方法で、表現し楽しむ能力が、一人一人の幼児にどのように育っているかをみる領域である。

幼児にとって、日常生活そのものが、表現であり、絵を描いたり、いろいろな素材に親しんだり、工夫して作ったりする造形的な活動も、表現活動の流れなのである。その流れの中で、音楽・造形・造形遊び(ごっこ遊び・劇など)の活動が、総合的な広がりを持った活動として、展開されることが、大切である。幼児は、ものをさわったり、積んだり、くずしたり、あるいは、何かを作ったりすることが、大好きである。このような構成本能を生かした造形活動を行い、この活動から得た感動を、多くの友達と共に、表現する意欲、自分なりの表現を楽しむ態度を育てることができる。

子どもの主体的な活動が中心となる造形遊び(ごっこ遊び・劇遊びなど)は、活動が進む中で、教師の場面に応じた適切な働きかけ、環境構成などによってより高められる。また、このことがさらに、着想・発想を豊かに、創造表現の芽を育て、人とかかわる力を養っていくことにもつながっていく。今回は、これらのことをわらいのひとつとして毎年行っている本園独自の教育活動である“セタフェスタ”における造形遊びが、総合された表現活動に発展していく様子を発表することにした。

又、その過程として、技術面で未熟な幼児は、自分のイメージやアイデアを、思い通りに表現できなかつたり、材料を使いこなせなかつたりとつまづきが、繰り返され、そのために製作意欲が損なわれる場面も、多々見られる。そのような幼児が、教師やM. T. (マザーズ・ティーチャー)〈本園独自の活動〉の励みの中で、技術的・精神的なつまづきを援助されながら、自由に自発的なイメージをふくらませ、造形意欲を高めていく様子を発表することにした。

## 2. 実践概要

①セタフェスタについて  
〈わらい〉



園と家庭とが一体となって取り組む教育活動として、本園には三大フェスタがある。三大フェスタは、季節と自然とのかかわりの中で子どもと園、そして地域と一緒にあってつくりあげる教育活動の大きなイベントであるが、単なる行事ではなく、「季節の楽しい体験活動」なのである。そのため四季の変化に応じた、リズムカルで総合的な教育活動を組み立てている。

三大フェスタの一番目は、7月上旬に行われるこの七夕フェスタで七夕のイメージをテーマに、親子一緒に楽しもうと、様々な表現活動を繰り広げている。昼夜にかけて、親子のみならず、一家全員での参加や地域の人々の参加を呼びかけて行われ、家族内の親密な関係を深めるだけでなく地域の人達との結びつきも強くなってきた。

#### 〈内容〉

七夕フェスタの盛り上がり、お祭りのイメージで創り上げていく縁日ごっこや、おみこし練り込み。縁日ごっこは広い園庭をふんだんに使って各クラスが決めた40あまりの店が開店する。品物作りにはM. T. (マザーズ・ティーチャー)とのふれあいもあり、様々な素材を使った、ユニークな品物が勢ぞろいする。品物が出来あがると、財布作り・お金作りと、さらに発展し、売り買いをはじめ、お店の装飾も、すべて子どもたちの手で行われる主体的な一大造形あそびである。又、心身を躍動させるおみこし練り込みは、学年ごとの題材にテーマを持った共同作業である。自分たちで、力を合わせて作った物であれば、かつぐ楽しさと喜びはより一層ますのである。父母や地域の人達の見守る中、「ソイヤ！」のかけ声も一段と大きくなる。

親子一緒に楽しむ活動として、盆踊り・七夕飾り・たんざくの飾りつけや花火・ちょうちん行列がある。親子一緒に願いをこめて飾りつけたり、リズムに合わせて思いきり踊ったりと夜の星空の下で親子の交流を深めることができる。また、七夕フェスタに向けては、各クラスや学年別で七夕のイメージから様々な発想・発展し、工夫された壁面構成も雰囲気を感じさせる効果をもたらしている。

#### ②M. T. (マザーズ・ティーチャー) 活動について

##### 〈ねらい〉

“みんなに開かれた幼稚園”のメイン活動として、母親が、先生となって子どもと一緒に遊ぶ活動である。このように父母が直接子どもの幼稚園生活の場面を見たり、体験する中で、母親自身が子どもとのかかわりを通して自己教育の場を持つことにより、家庭での子育てをよりよい方向へ向けていくことができる。又、園や家庭での子どもの実態をトータルにとらえることで、その子の発達に合わせたかかわりを持つことができるようになる。

##### 〈内容〉

年2～3回のカリキュラムが組まれ、全園児の父母が、そのうち一回を希望により選び、3～6人のグループで、M. T. 活動を進めている。園と一緒に登園し、朝と帰りの自由活動では、子どもと共に鬼ごっこをして走り回ったり、給食と一緒に食べたりする。一言活動では、グループ毎に事前に打ち合わせ会をもち、出されたアイデアをもとに母親らしい工夫した導入や興味づけを行いながら、活動を発展させている。又、M. T. 活動において教師は間接的指導の役割をし、母親へのアドバイスや母親の自主性を尊重しつつ活動がスムーズに流れるように援助を与えたりしている。

特に造形の活動面では、教師とは違う母親的な言葉がけをしながらか、活動を行っている。教師はM. T. と子どもとのかかわりが総合的な活動として発展できるように積極的に刺激を与えるよう留意している。



### 3. 成果

①共通のテーマにそった活動の中で、友達との会話もはずみ、お互いの作品を評価しあう場面が増え、それによって、模倣や、新しい発想が生まれ造形意欲を高めることができた。

②環境構成を工夫することによって、園内・クラス内の雰囲気作り、子どもたちの動きを予測した教科準備ができ、主体的な活動が生まれ、活動の幅も広がった。

③時間（日数）を充分にとり、継続した造形あそびを展開することによって、子どもたちに、曜日ごっこやおみこし練り込みなどの造形あそびが、よく浸透し、全員で、七夕フェスタを盛り上げ、楽しいものにする事ができた。

④M. T. と教師の援助が、個別化され、技術面・精神面でのつまづきから造形意欲を削ぐ場面が少なくなり、発想豊かな作品ができ、子どもたちに満足感を与えることができた。

⑤おみこし練り込み、曜日ごっこの呼びこみなどの言葉を使った表現活動を通して、内向的で自分を人前で表現するのが苦手だった子の自信へとつながり、少しずつ、自己表現できるようになり、造形表現にも変化が見られるようになった。

⑥学年・クラスの枠を越えた、クラス内外の交流をはじめとし、教師・M. T. など多くの人と接する機会が与えられたことにより、人とかかわる力を養うことができ、造形活動にも幅が広がった。

⑦七夕フェスタまでの活動・七夕フェスタの活動は、子どもたちにいろいろな経験となり、満足感・達成感などの心に残る思い出深い活動となった。

### 4. 今後の課題

今後の課題として、実践研究を通して、さらに内容を見直ししていく必要があるものを上げてみる。

①M. T. 活動において、M. T. の指導が、大人の見方による「おしつけ」にならないように、教師とM. T. との打ち合わせをより密にし、共通理解を持つ指導をする。

②はさみの使い方・のりのつけ方など、基礎的な技術を多く経験することと、いろいろな素材を使った発想豊かな造形活動が、行えるように、素材に親しむ機会を多く持つ。

③子どもたちの満足感、達成感が次の意欲につながるように、共通のテーマとなる題材（運動会・生活発表会など）の環境構成の見直しを行い、子どもの主体的活動が継続できるようにすることが必要である。

以上

学校名 苫小牧市立北光小学校  
氏名 宮森 俊治

1. 卒業式のバックを 子どもたちの手で

卒業式のバックを子どもたちの手でという発想に立ったのは、体育館改装が契機であり、それまでは毎年保存されていた文字が、バック全面を飾っていたものである。私も8年間、それに慣れてしまっていた。

「せっかくつくったものは、永く使おう」「手間を省こう」という教師の知恵というか何かか…。それが改装を契機としてステージも、ぐんと大きくなって古いバックは合わなくなってしまったのである。また、卒業式特別委員会も設置されており「卒業式を最後の授業に」という考えも出てきて、卒業生がテーマを決定し、バックもデザインしたらという発想となった。それが、北光小の最初のバックづくりとなった。テーマは卒業生が決め、バックデザインは私が受け持つことになった。



2回目、3回目は、豊川小での実践となる。卒業生のテーマとデザインでバックを飾ろう、という私の提案が受け入れられたわけである。



2回目はテーマを卒業生の学級討議で決定し、デザインも卒業生に公募し、手直ししてデザインした。残念ながら卒業生の手は足りられなかったが…。そして、3回目、私も卒業学年であり、2学期末から準備にかかった。卒業式実行委員会と称して10名を組織し、とうとう卒業生自らの手で、バックづくりを完成した。

1. 卒業生がデザインしたバック
2. 卒業生がデザインしたバック
3. 卒業生がデザインしたバック
4. 卒業生がデザインしたバック
5. 卒業生がデザインしたバック
6. 卒業生がデザインしたバック

実践してみて感じたことは、卒業式に参加した全員の目を集めるバックの絵を、子どもたちだけの力でつくり上げるならば、5、6年のどこかで、切り絵指導を入れる必要がある、ということである。



2. 紙のフェスティバル参加への取り組み

(市立大成小学校)

第1回と第2回の参加については、児童に催し物の趣旨や内容を知らせ自主参加を呼びかけた。主催者側が新聞に掲載した広告に、造形部会員がつけ加える形で、全校児童に配付したが、日曜日の開催ということもあり、多数の子が親子で会場に足を運び、造形遊びを楽しみ、かかえきれないくらいの手作り作品を土産に帰路についた。



今年度の紙フェスティバルの参加は、お客様として会場に出かけるので



はなく、自分達もフェスティバルを作り上げる一員としての体制を導入しようと試みた。学級の1年間の行事を計画する段階で、児童に担任の構想を話したところ、何にでも興味を示す4年生という発達段階でもあり大賛成の声が上がった。子どもの好きなおみこしに決まったものの製作時間の確保や材料費の捻出、市中心部までの児童の輸送や製作物の搬入など問題点をたくさんかかえこむのが実情である。物理的なことは除々に解決していくことにして、子ども達全員が活動できることを第一に考えなくてはならない。幸い、本校に造形部会員が8人いるので、知恵を出し合い「造形みこし」の案を練り上げることができた。特に留意したことは、本校のゆとりの時間として確保されている週1時間の「みんなの時間」を製作の時間に充当すること。紙を使った造形を主体としながら、子ども達の創造性が十分生かされた物であること、つくることの喜びが味わえる物であること…。であるが、時期的に運動会終了時からの取り組みなので意図したことがらが生かされるかどうかについて非常に不安である。

地域の行事に主体的に参加するという事は、造形教育を越えたところで意義を見出すこともできるはずである。

### 3. 氷上カーニバル

冬のおまつり、氷上カーニバルとのかかわりは7年。でも半年の3年間は池本先生がやられているのを、子どもと共に学ぶ、見習いでした。紙の張り方、のりの作り方を学び、池本先生が転動されたあと、伝統をまもりつつける意気込みだけで、はじめた氷上カーニバル指導でした。



若草小造形クラブ、教師の力量が…、をゆるさぬ熱意がありました。北光小へ転動して、カーニバルのたのしさを3年生にはなしたら、ものめずらしさもあってか、当時人気のあったドラゴンボールのキャラクターをつくりたいということで冬休みの作業になった。材料は、角材とダンボール、のこぎりやのみ、かなづちなどをにぎった時の生き生きした顔は教科学習ではおめにかかれない顔であった。休みあけ、骨組みもでき、ダンボールで体をつくり、すこしずつ人形らしくなると、歌もでてきて、人形をもってきたり、本などで表情を調べたり、靴をいどんでくる低学年へ、こわしたらこまると、生活指導しにいくなど、予想以上のもえ方であった。

当日は、ダンボールでのつなぎ靴も参加した。こうした活動から、運動会での児童会による装飾部門へ、巨大人形提案をする子どもへかわっていった。北光小ではじめて5つの巨大人形がグラウンドに立った。



その中の1つに、スポーツカーにのったパーマンがある。スポーツカーをつくる時、自分たちがのってつづれるところをさがし、大丈夫なところでパーマンをのせるなど、自信に満ちた作業ぶりであった。運動会終了後はパーマンを処理し、スポーツカーを1年生にプレゼントするなど、心の広がりも学んだ子どもたちであった。

低学年をうけつようになつたここ2年間は、学校父母へ、はたらきかけた。学校行事のたびに紙工作の時間をつくり、たのしさを十分あじわってもらい、そして巨大人形制作、骨組み、



人形の体づくり、色めり仕上げは母さんの仕事。はりぼてに紙をはったり、当日のかわいい演技は子どもの仕事と、母子一体となったのカーニバルであった。

この経験が、園会場と紙フェス会場へ装飾参加となり、まさに広がり、深まり、感動の造形活動であった。

#### 集会活動と造形（ロボット集会）

苫小牧市立泉野小学校

泉野小学校造形部会

##### 1. 集会への造形参加

児童の集会活動をいかにいきいきと活動させ、楽しいものとするか、各校それぞれ工夫をこらしているところではある。

本校では、集会活動の中にロボットづくりという造形活動を組み入れることによって楽しい集会となっています。

単に造形活動を教室の中だけで終わらせるのではなく、学校行事に組み入れることによって、その活動が広まり、深まり、感動を創り出すことになる。学級・学年の壁を越え、協力し合い、共感し合って、個々のもつての造形能力をフルに活用しながら、ものを創り出す喜びを味わわせる機会。

##### 2. 集会への取り組み

###### ① 班づくり

校外班（動別グループ）を利用、縦学年（1～6年生）で構成される。一グループ、10名ぐらい。

###### ② 設計図づくり

どんなロボットを作るか各班毎計画をたて見取り図を書き、名前も考える。

###### ③ 材料・用具の準備

計画に合わせ、材料（ダンボール中心）と必要な用具を班員に割当て、準備させる。

##### 3. 集会活動内容

集会時に全校児童が班毎に体育館に集まります。55分の中で1年生から6年生までが、自分たちの役割に合わせ一斉にロボット作りに取り組みます。条件は立つことと大きさを背丈位におさえるということです。

完成したロボットは廊下に展示し、児童会を中心に審査をし、賞をさめます。

##### 4. 成果と課題

縦割り集団（1～6年生）による活動が少ない現在、1年生から6年生までが助け合い、はげまし合いながら造形活動に取り組み、感動を共有できることは、児童にとっても良い機会となっている。各児童の持っている能力を学び合い、認め合いの場ともなっている。

・だんだん児童数がふえ、体育館が狭くなり、のびのび活動ができない面もでてきた。

・ロボットは一回限りで、材料・用具がその都度消耗するため、予算の裏づけが必要である。・今後、その他の造形活動を取り入れる工夫も必要となってこよう。



力を合わせてロボットづくり—泉野小

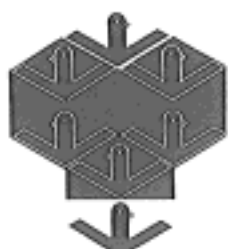
彫刻の森大会

— 地域の環境を生かした造形活動 —

旭川市立東広小学校 飯塚 礼二  
旭川市立緑新小学校 佐藤 修司

1. はじめに

旭川市では、青少年の健全育成を願い「豊かな心を育てる施策事業」の一環として、たくましい体と粘り強い意志を培う「さわやかマラソン大会」、そして、子どもたちと教職員と一緒にふれ合いを深める中から創造性豊かな心を育てようと「彫刻の森大会」が開かれてきました。今年で4回目を迎えようとしています。



彫刻の森大会

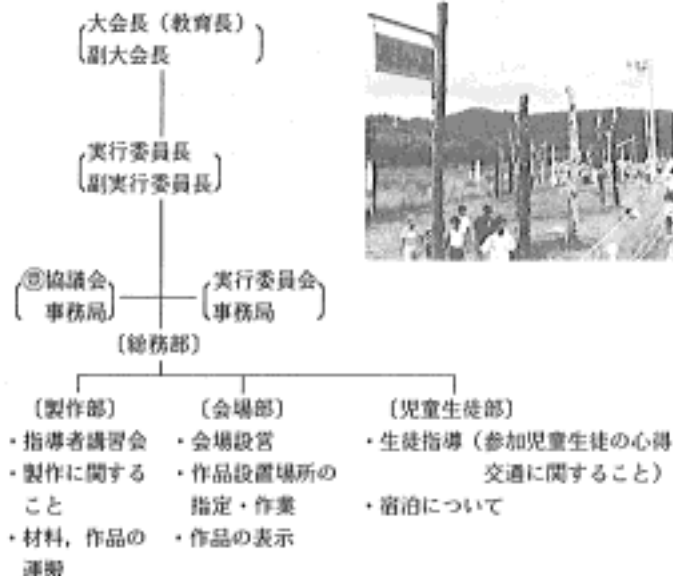
2. 彫刻の森大会の趣旨・目的

旭川市は豊かな木材資源に恵まれた「木のまち・木工芸のまち」として栄えたまちであり、また、多くの彫刻が街角や橋に点在する芸術性豊かな「彫刻のまち」として広く知られた都市である。

この旭川に住む子どもたちと教職員が力を合わせ、創造性を発揮し、木の特性や美しさを生かした屋外展示木彫を制作して、未来に夢と希望を与え、創造性豊かなまちづくりに寄与するとともに豊かな心とたくましい表現力を養う場とする。

また、その彫刻を広場などに展示し、多くの市民が彫刻の美しさを楽しみながら未来のまちづくりのイメージを育てる場とする。

3. 彫刻の森大会実行委員会組織



\*木材は現物支給  
・丸太(8m)  
・ベニヤしん材  
・柱材、板材など

\*参加児童(小学校5・6年)  
・中学校  
作品は1校1作品

#### 4. 彫刻の森大会の実践から

##### (1) 旭山動物園会場 1987年8月

開園20周年を迎えた旭山動物園を会場に第1回目の「彫刻の森大会」が開かれた。市内の小中学校から71校が参加し、大きな丸太材や角材その他の材料を使い、トーテムポール・小鳥の木・風など、見上げるような大きな作品、かわいい楽しい作品が展示された。

ほとんどの作品は各学校で製作され、現地で組み立てられたものであるが、キャンプをしながら複数の学校の児童生徒が交流しながら共同製作するという試みもなされた。また、武蔵野美大生の特別参加作品があったり、向井岡良吉氏の講評などもあって開会式は盛会であった。

指導者の研修（図工・美術部員中心）としては、「林産試験場」から講師を招き、木の特性・工作法の基礎・塗装の技法などの指導を受けた。

子ども達も教室でひとりひとりが作る作品とは大きさも展示の方法も違うことに驚きながら目をかがやかせ汗を流していた。

##### (2) 富沢多目的運動広場の会場 1988年8月

全道・全国規模のスポーツ競技会場（団体、高校総体など）に、子ども達の木彫作品群が並べられ、厳しい冬にも耐えられるトーテムポール風の作品が64校から出品された。

「……いとこが遊びに来たとき、ぼく達の作品を見に家族で富沢まで行った。作品を立てたときより全体が落ち着いて見えた。いろいろな大会に来た人たちが見てくれたのだと思う。どんな感想をもっただろう。いとこやおじさんに色のことでほめられうれしかった。金づちでたたいた手のいたさや暑い日のしごとを話した。……」（6年K男）

##### (3) 福祉村の会場 1989年8月

郊外の春光台にある福祉村（6つの施設）の広い芝生の中、福祉村の大きな通りに沿って作品が並ぶ。入所者や入園者の方々の目を楽しませ、心をなごませるために少しでも役立つことを願った。東海大学生の作品、施設の人々の作品も展示され彫刻の森大会に広がりを見せた。3回目を迎えて作品も変化に富み、音の出るもの・手をふれると動くもの・乗って遊んだり、休めるベンチ風の作品も見られた。

大会オープンの日前後は気温も高く、子どもも教師も汗だくの取り組みであった。また、大会オープニング式の後で入園者との「ふれ合い交流」も行われ、ものを創りだすよろこびと、やさしさを行為に表すことのすばらしさを体験することのできた大会であった。

##### (4) 常磐公園会場 1990年8月予定

本年度は「旭川開基 100年」を記念した行事が常磐公園を中心に開かれ、彫刻の森大会もその中で実施されることになっている。油もあり水を利用した作品なども新しい試みとして取り組まれている。また、公園や市の中心部に並ぶ彫刻の啓蒙も含めた「彫刻スタンプラリー」も予定されている。

#### 5. おわりに

地域性を造形活動の中に積極的に取り入れる、生かしていくためには子どもたちの地域社会におけるくらしぶりを知るとともに指導者自身が地域社会にとびこみ、地域の自然・文化・人々のくらし等にふれ、肌でその地域性を実感し理解することが必要である。

彫刻の森大会にもいくつかの問題が見えてきているが、回を重ねるごとに造形活動が広がり深まっていくことを期待している。

— 森と遊ぶ親子の集い —

— 総合学習が生んだあみも祭りの概要 —

学校名 苫小牧市立美園小学校  
氏名 鴻江 茂

1 あみも祭りとは

あみも祭り… この聞きなれない「祭り」の正体を解き明かすのに、はじめのうちはずいぶん時間がかかり、内容もつかみづらいものであったが、毎年繰り返していくうちに、地域にも一般化し今では一言で「あみも祭りとは、自然讃歌のまつりであり、自然とのふれ合いを祭りのかたちと、遊びの感覚を盛り込んだ総合学習である」と答えてきた。

一方、子どもたちに対してはできるだけ、なじみやすくするために、右のように青い空の「あ」、清らかな水の「み」、いのちの森の「も」と書き表し、あみもまつりと呼んでいる。

あ 青い空  
み 清らかな  
も いのちの

2 なぜこんなイベントを

右の図は、あみも祭りがどんな背景やわがいのもとに創り出されてきたかを示した構造図であるが（詳細は別冊あみも祭り参照）、ここでは、簡単にふれることにする。

図からも解かるように、本校が地域の自然環境を生かした地域素材の教材化を志向していたこと。

自然破壊・環境悪化などによって自然の変化や思潮がおこり、自然との共存共生を模索する時代背景があること。この二つが大きな柱となっており、これを支えるものとして、北大演習林の開放と、都市近郊林として人間とのかかわりのある森として位置づけられていること。これに加えて、本校の教育が、地域と共に歩む開かれた学校として、父母の参加や協力、手づくりの教育が叫ばれていたことなどが、このイベントを生む要因となっている。

あみも祭りの全体構造(関連図)

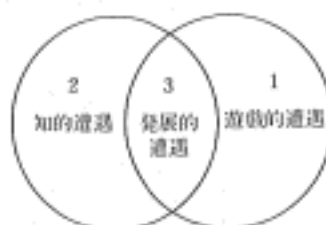


3 あみも祭りの位置

あみも祭りは、自然とのふれ合いの祭りであるが、全くの遊びとしてのそれでもなく、また、知的な自然科学の学習の場でもない。図の3に示すように、発展的な総合された場として展開されている。したがって、取り上げるイベントの内容は、間接的でおだやかな方法で自然を理解するものが取り上げられる。



## 自然とのかかわり



木の葉・草の実・つる草などを使い楽しんだ変身大会。森がテーマの野外劇、生きものとのふれ合いがテーマの「のぼり」など、直接、自然や大地の恵みを教えるのではなく、ダイナミックに自然の懐で遊ばせてもらう—このことが重要であると考えている。

### 4 イベントの基本

子どもたちと自然を語っていく方法はまず、楽しくなければならぬ。だから抹茶くさい説法は一切とらずに、おおらかで雄大な懐の中で遊ばせてもらう感覚でイベントをつくってきた。

目を閉じたら、祭りの姿が映像となるような、ダイナミックなものでありたいと考えている。祭りの広場に200本もの「のぼり」を建てることも、大きな船を浮かべることも、スケールが第一であった。袋で紙人形をつくり、人形劇を林間でやったが一つが6畳ぐらいとなって、はじめて自然と調和してくる。

このように、大胆で斬新であること、表現することの期待とよろこびが持てるようなものにするによって、子どもたちは、豊かな感性と感動を育て合ってきた。

### 5 造形教育との結びつき

これまでにとり上げてきたイベントは、造形教育の力を借りてやってきた。それも、個々バラバラの力ではなく、グループや集団制作の場が多かった。父母の手に依って作られた、わら人形づくりが、喜々としてすすめられたことは意外であったし、この活動をとおして、協力と連帯感が、これほど育ってくるとは想像できなかった。

未知なもの、夢のあるものに対する人間の興味・関心ははかり知れないものであり、集団的な造形活動は、人間を生々とさせ、仲間との結びつきを強くしていくものであった。

### 6 祭りのあとに

私たちが、森と遊ぶ親子の集いを続けて開催してきたことは、一体何であったのだろうか。単に、研修のテーマが、地域の教材開発であったからではない。子どもと共に、森で語り、森と遊び、森を語り……しているうちに、強い使命感みたいな意志をもつようになった。

“森は 生きるすべてのものの揺籃 これほどの 大いなる慈愛があるだろうか 人々は もっと畏れなければ はじかれる”

この思いが教師側であり、同時に父母にも感動と共に理解されていったからであろう。

「あみも祭り」の集録中に、子どもたちの作文・詩・父母の感想が掲載されていますが、お世辞ではなく感動のコトバを寄せてくれた。私たちもまた、この子らへの遺産となるであろうことを確信している。





「広がりと深まりの中で、生涯学習の場として」  
「紙フェスティバル '90白老」

学校名 白老町立白老小学校  
氏名 笠原金一

はじめに  
ひとこと

ものが豊かになるにつれ、作るあそびは姿を消し、与えられた既製の道具であそぶだけになってきています。また世の親たちは、読み書きに期待し、小学生の親たちも、4教科さえできれば充分と考えて作る活動を軽視しています。

子どもは作る活動のなかで、はじめて手指を巧みにし、ものの性質を正しく理解し、またものを作るプロセスを知るとともに創意工夫する態度を育てることができるからです。

今回の改訂では、図工科授業の総時間の二分の一を下らないよう、作る活動を強く指示してきています。

造形素材  
を紙で

児童の造形教育に使われる多種多様な造形素材の中で、紙の占める位置は非常に大きい。幼児の表現活動は紙との出会いから始まるといっても過言ではない。真っ白い紙の上に引かれたストローク

から児童のイメージは育っていきます。くしゃくしゃに丸めた紙の形から児童の想像は広がる。紙は造形の可能性を無限に秘めた素材であります。

平らな二次元の素材から、三次元の立体へ抵抗も少なく容易に変化することもできます。

このような素材の特性は、幼児から高齢者までの素材であるといえます。

次代を担う、紙のまち白老の子どもたちをはじめ、町の人々に創作の喜びと感動を与え心の豊かさを育むとともに、人々の交流を深め、明るく活力ある町づくりをすすめるため、紙のまちにふさわしいイベントとしての紙フェスティバルを昭和63年から開催してきました。

- ・日 時 ・平成2年7月8日(日)午前10時～午後3時
- ・会 場 ・白老町総合体育館
- ・参加対象 ・町内の幼稚園・保育所・小学生・中学生・高校生を主体とするが、団体・企業・一般町民にも呼びかける
- ・実施方法 1. 参加グループから、あらかじめ制作物・参加人員・必要材料など記入した計画書を提出させる。
- 2. 計画書にもとづき予算書を提出してもらい、各団体毎に製紙会社で用意できる紙以外は購入してもらい後ほど精算する。
- 3. 作品は計画にもとづき、会場内で製作活動をする。ただしあらかじめ制作しておかなければならないものについては事前に製作し会場に持ち込んでもよい。



- 4. 新作コーナーを設け、町民が自由に参加できるようにする。
- 5. 体験コーナーを設け、紙すきを行う。
- 6. 広報については、町の広報紙、北海道新聞で行う。
- 7. 人員・作品の輸送は、町のバス・トラック(大昭和)で輸送する。



8. 表現内容と方法の指導については、幼稚園・保育所・小学校・中学の各学校の指導者にお願いします。

9. 代表者で、実行委員会を組織し実際の作業をすすめる。

10. 事務局は、白老町教育委員会に置く。(社会教育推進室)

紙を使った遊びと造形を楽しむ「紙フェスティバル'89」が、7月9日、白老町総合体育館で開かれた。

会場には、白老町の保育所や幼稚園・小・中学校や高校・白老商工会青年部や婦人会など22団体から約500人が集まった。

参加者たちは、午前中、のりや絵の具にまみれながら最後の仕上げに夢中、昼頃には、会場を数々の力作が埋めつくした。

作品は、体長2メートルほどもある「恐竜トリケラトプス」や幼稚園児の「ひまわりの壁面」など展示作品のほか、小学生の「迷路」、二階観覧席を利用して、紙人形をとばす「紙ジャンプ台」白老商工会青年部など、楽しく遊べるものも、年々目立ってきている。「紙すき体験コーナー」では、大昭和製紙白老工場の社員の丁寧なアドバイスを受けて、子どもたちが、紙づくりに夢中になっていた。



午後からは、ステージで、保育園児たちが、自分で色つけをした紙の浴衣を着ての盆踊りを披露し、父母らの盛んな拍手を浴びていた。

(平成元年7月10日付の北海道新聞より)

#### 紙フェスティバル '90出品プログラム



#### 1. 制作・展示部門

体育館で作品の制作・展示

#### 2. 体験部門

「紙すき」体験学習

#### 3. 学習部門

紙のできるまでをビデオによって学習

#### 4. ステージ部門

大きな紙の絵本「アイウエ王カキクケ公」

広がり  
と  
深まり  
の  
中

・最近の子どもたちは、ものを感じなくなったといわれています。いろいろな事実や問題に無関心であるばかりでなく、それらに直面しても無感動、無表情であることが多いといわれています。

これからの学校教育においては、学校の全教育活動や地域の活動を通じて、子どもたちが、何事に対しても関心を示し反応し、意欲的な態度を育てなければならない。そのためには、このような感動経験を積み上げさせる必要があります。

・学校教育では、毎日の具体的な生活の場や指導を通して人間が社会的存在であることを教え、地域の活動に参加し、社会連帯感が、子どもの身に付いていくよう指導することが必要で、自己を主張することの大切さと同時に社会連帯感を身に付けることの必要さを、このような具体的な場や機会を通して指導し、21世紀の未来に生きる子どもたちを育てたいと思います。



「心を染めた 夕焼けの色」

— ある出来事の表現を通して思うこと —

学校名 深川市立菊水小学校 教諭  
氏名 渡辺 貞之

私がこれから申し上げることは、子ども達と一緒に生活している先生であれば、誰もが経験できる取るに足らない事でありませう。しかし又、日常生活の中で、つい見過ごしてしまうできごとでもありませう。

ある朝、まだ始業時前のことでした。

数人の子どもたちが、興奮して職員室に駆けこんできたのです。

「先生、ねこ、ねこ拾ってきた！」

「どうした？ どこで拾った？」

「あんね、あんね。踏切、木のはえたとこの、テレビの段ボールの中」

子ども達の顔の中には、生まれてまだ一週間もたない位の小さく、黒いねこが一匹。さあて、こまったぞ。とにかく、職員室じゃどうにもならないので、教室に持って行きました。

「おい、みんな。このねこ、どうする？」

「せんせ、せんせのうちに、飼って！」

「え、だめだ、だめだよ。先生のうちでは。みんなも知ってるだろう、先生のところ、もう18匹もいるんだ。もう満杯だよ」

「だけど……」

「さあ、どうする……」

かわいそうなねこを拾ってきた。いいことした。先生、きっとほめてくれる。と、胸をわくわくさせてきた子どもたちは、思わぬ事の成りゆきに言葉をなくしたようです。

「困ったな……」

「うん……」

「もとのところへ、もどしてくるか…… という訳にもいかないしな」

「だれか、飼ってくれんかな……」

子ども達と私は、どうしようかあれこれ悩みました。

とにかく、誰か飼ってくれるのかも知れない。うちで飼ってくれるようにたのんでこよう。……しかし、一軒のうちからも、いい話はなし。

それじゃ玄関や廊下にポスター貼って、みんなにたのんでみよう。チラシもつくって配ってみよう。……しかし、これも、どこからも反応なし。

「しかたないな、かわいそうだけど、やっぱりもとのところへ、おいでしてくるか、誰かやさしい人が拾ってくれるかも知れないし」

「いや、いやだよ！ な」

「だってよ、どうする？ もうこれ以上学校には、おいておけんぞ」

「……」

現実の厳しさを、子ども達は、痛いほど感じているようです。ああ、結局又、おれのうちに飼っちゃうことになるのかな……私の思いも厳しいものでありました。

ところが、思いがけず、一人暮らしをしているおばあさんが、私達のこのようすを聞き、ねこを飼って下さるとの電話があったのです。嬉しかったですね。

さっそく子ども達は、おばあさんに、お礼の手紙をかきました。

きれいな色紙を貼った段ボール箱を作りました。



子ねこの首にかわいいリボンもつけました。

放課後、みんなで自転車に乗って、子ねこをおばあさんのうちへ持っていきました。おばあさんは、今まで飼っていたわねこが死んでしまったけど、もう、歳だからこれから又、ねこを飼うわけにはいかないと思っていたそうです。でも私達の事情をきいて、もう一度、飼ってみる気になってくれたそうです。

「あのね、このねこね。あんまり肉くわんよ」

「おばあちゃん、このねこの名前ね。くろんこっていうんだよ」

「しっば、ほら、くるくるって巻いているから、ねずみ取るのうまいんだって」

「あんね、水、水はいつもちゃんとおいておかないとだめだよ」

「ね、時々、みにきていい？」

「おばあちゃん、ありがとー」

子ども達と私は、子ねことおばあさんに手を振りながら帰りました。赤いきれいな夕焼けでした。何か急に淋しい気持ちでした。子ども達も同じ思いだったのでしょうか。さっきまであんなにわいわい元気だったのに、今はただ、黙々と家路にむかうのでした。

次の日、私は、このできごとを、形のある思い出として残しておきたかったので、さっそく絵にかくことにしました。

「くろんこ抱いた時、どんな気持ちだった？」

「今頃、きっとみんなのこと思い出して泣いてるかもしれない」

「きっと、くろんこ、幸せになれるよ」

「くろんこ、みんなにありがとって言ってるよ。な、もし、くろんこがみんなに、お礼したいっていったら、どんなことしてもらおう？」

こうした問いかけをしてから子ども達に、絵をかいてもらいました。できあがった絵を黒板に張っていきました。すると、なんと！どの子の絵も、みんなバックを夕焼けにしているのです。それは、どの子もとてもきれいな夕焼けの色でした。それにしても、クラスの子がみんな、私が一言もいわないのに、申し合わせたように夕焼けにするなんて…。なぜなのでしょう。

色彩感覚は、非常にデリケートな感性の中であって、育たないと言われてきます。精神が浄化していなければ、色彩が印象の中で強く残っては、こないといわれています。あの時、子ども達はどんな心だったのでしょうか。子ねこを飼ってもらえてホットした安堵感、苦勞がむくわれた喜び、子ねここと別れるちょびり淋しい心、いやそれは言葉ではいい表せないもっと大きな何かがあったのだと思います。その結果、心が浄化していたのでしょうか。ちょうど傷口がヒリヒリ痛むように、あの美しい夕焼けの色が、子どもたちの心にしみ入ったのでしょうか。

私は、このできごとを通して、表現するとはどういうことなのかということが、少しわかったような気がします。

生活の中で、浮遊する様々なできごとをデリケートな心情の中で、取りあげてゆく。このことは、表現ということにとどまらず日常の教育のあり方の核心にふれることでもあると思うのです。

— 地域や学校行事とむすびつく —

広がりの造形活動を求めて

— 紙フェスティバル '90からの実践 —

学校名 苫小牧市立啓明中学校

氏名 遠藤 秀三

1. はじめに

紙の町・苫小牧市と言われても、実際に子どもたちが紙に接する場面が少ない。そこで、3年前から、隣の町・白老町とタイアップして、紙のイメージを打出したイベントとして紙フェスティバルが生まれた。幼・小・中・高校、そして一般の団体が一同に集まって、紙を素材にしたあらゆるものを創造し作り上げる祭である。

本校は、第1回・2回のフェスティバルには、紙を素材にした授業をカリキュラムの中に入れるのは難しいということで、話し合いだけで終わった。今年の第3回目は、できる所からということで、美術部の生徒の手で、初めて参加した。美術部の生徒は女子ばかり25名程度で、難しさもあったが取組んだ。前年度から、クラブ活動の中にも、ペーパークラフトやおり紙クラブのように紙を使っているクラブも生まれている。

2. 広がりの造形活動

地域素材としての紙を通して、地域社会への創造という点では、従来からある展示会とは違った観点から造形活動の意義は大きい。授業の枠から外れて、学習の場の広がりが見られる。教室の中だけの教育活動で、子どもたちの創造性が豊かに育つわけではない。子どもたちが育ってきた地域で、地域のイベントに参加し、他の学校との交流や刺激し合いながら、子どもたちを取り巻く文化の創造をする。

この紙フェスティバルは、一般の人とともに、子どもたちに紙という素材を与え、そこで自由にのびのびと制作して、様々な試みや習得できないような何かを作ってもらいたいと考えている。

一つのものに向かって、試行錯誤し、悩み、考え、体験が不足している子どもたちに、制作を通して、生活化させる総合学習の場ととらえている。ですから、美術の観点から質の高いものが求められるのだが、むしろ、それ以上に制作の過程を大事にし、遊び的な要素を取り入れて、作り上げたという成就感をあげて欲しいと願っている。

3. 実践にあたって

今回の紙フェスティバルに苫小牧造形部会として、どのように参加していくかという話し合いが持たれた。中学校としては、ダンボールプレーということになり、二層ダンボールの制作に決まった。フェスティバルであり、会場に同一のものが集まらないようにということで、検討を重ねた。本校は、子どもたちの希望で業物に挑戦することになった。

実践その1 “クラシックカー”

条件のダンボールを使って制作するのに、どんなものが可能かを子どもたちに話し合わせた。紙でつくるもので、とりわけダンボールで作ったものの参考文献があまりない。子どもたちからは、迷路・スゴロク・ビルダーカードなどが出た。そこで、教師側から、城や乗り物なんかもあると投げかけた。その中で興味を持ったのが、車である。



ところが、書店での資料が全然見つからない。そこで、教師側で、一つ図面を引いて、ミニチュアをつくる。その型紙から子どもたちが、ミニ模型づくりから、制作の過程を知る。教師側は、さらに実際のダンボールでの制作をして1号車の試作をする。そして、完成した車を見て、自分達の考えた車を作りたいと意欲が生まれて、子どもたちの新しい形のミニ模型ができる。それをもとに、いよいよダンボールにとりかかっていった。模型の10倍の大きさで、ダンボールのてごわさを制作する中で感じていった。

#### ダンボールの難点

- 1) 接合の仕方……接着剤では難しい……組合せや差込みを
- 2) 曲面をだすのは難しい……直線を多くだす
- 3) 紙は重い 車軸が耐えられる重さ
- 4) ダンボール1枚では弱い……強度の工夫……タテ目と横目の張合わせ

そのほかに、当日会場に持ち込むことを考えて、運搬のことを考慮して、大きいものだけに、部分ごとの結合が可能であるようにする。

女子生徒だけに、カッターでのダンボールの切断には、手にマメをつくっての悪戦苦闘であったが、制作が進むにつれて、創意・工夫が生まれてきた。そして、子どもの手による2号車の誕生である。諸行事の合間を見ての制作で、子どもたちは、一台制作するのに精一杯であった。3号・4号・5号車は教師側の制作であり、教師側も紙フェスティバルに参加させていただいた。教師主導からの制作であったが、最終は、子どもたちの手に返ればよいと考えている。子どもたちの手で車を完成させた時の顔は、みんな満足そうであった。

#### 実践その2 “くす玉づくり”

苫小牧造形部会の実技講習会で※等腰多面体を使ったダンボールによるくす玉づくりをした。実際に制作してみて、学校行事の中に生かせないかと考えて、予備会の中で実践したものである。

始めに、講習会での試作品を美術部の子どもたちに見せて、作ってみようと言きかけた。講習会では、二種類を作ったが、子どもたちは、正五角形と正六角形を組み合わせて作る複雑な形に興味を示し、冬休みの活動とした。材料のダンボールは、スーパーや商店から集めたもので、回りにあるもので可能である。あと、ガムテープ・模造紙・手製のデンプン糊ではりあわせ、ネオカラーを塗って仕上げる。5～6名の子どもたちで、2日もあれば、直径1mほどの形づくりはできる。平面の正五角形・正六角形をはりあわせて、立体を作り上げていく部分は、集中して作業に取り組み、最後の一枚がおさまる時は、“やった”という気分を味わう。

この部活の子どもたちによるくす玉づくりは、作る喜びの部分ともう一つ、生徒会行事の予備会に使うことも助みになっている。

三学期の半ばに、予備会の各学級の取組みの一部として、2年生の2学級に、くす玉づくりが生徒会から提案された。形は、正方形と正三角形を組み合わせた多面体で、3年生のクラスの数の8個を同形で、4個ずつ2クラスに計画した。学年末の多忙な時期であり、すべて完成したのが予備会当日の朝であった。

くす玉に入れる紙吹雪も、実技講習会で何種類か試作された。より美しく見えるのは“回転しながら横に広がって落下するもの”であった。子どもたちも各々ユニークな形をくす玉の中いっぱい入れた。

予備会の中で、最後に、美術部の子どもたちの大きなくす玉を中心にし

て、左右に4個ずつ学級で取り組んだ小さなくす玉が、ステージの上に取り付けられて、同時に割られ、中からタレ幕と紙吹雪が舞うという演出であった。当日、1個が割れ残ったものの、8個のくす玉がきれいに割れて、中に入れたタレ幕も広がり、全校生徒の大きな拍手を呼んだ。

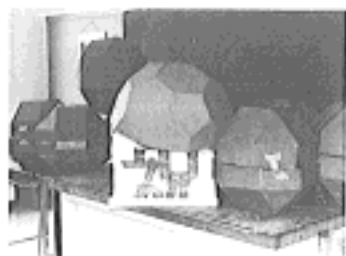
※等稜多面体……正多角形をつなぎ合わせた所を稜線として形づくる立体

#### 4. 今後の課題

今回の実践は、美術部の子どもたちが中心になって取り組んだもので、普段の授業の中に、取り入れていく難しさがある。グループ学習の中に取り入れた時の協同制作となる評価の問題。制作上で、時間の確保。どこに保管するかという場所の問題。紙は、立体にすると、どんどん大きくなっていく。



図10 完成したくす玉



学校名 帯広市立八千代中学校  
氏名 小西 三雄

◎ 本校の概要 生徒数 男子12名、女子11名 計23名  
3学級、僻地3級地（平成2年1月より）

昭和22年、川西村立八千代中学校の名称で発足、32年に帯広市に編入、38年6学級編成、生徒数159名、その後40年前半にかけ難農が続き、生徒数が激減する。60年新校舎が落成し、現在地広野町に移転する。純農村地帯で現在100戸余り。学校教育には理解も深く、極めて協力的である。部活動が盛んで、女子は全員がソフトボール部に加入し、全道大会で過去3回優勝。男子はテニス部が63年に発足し、翌年より連続して道大会に出場し、好成績を上げている。

◎ 本年度の八千代中の研究テーマ

「個々の力を引き出し、生き生きとした生徒を育てる」—小人数学級における個に応じた学習制度のあり方を探る—

6月13日（水） 帯教研園工美術部会の授業研を本校で校内研と合わせて実施する。題材 版で表す（日画像） 3学年

◎ 本校の教育の特色

- (1) 郷土学習の実践。61年より年3回実施。例、「手打ちそばづくり」
- (2) 国内体験学習の企画、田園都市交流回（8月）
- (3) 全校スキー学習、12月より翌年3月まで、毎週土曜に実施。
- (4) 登山学習 6月下旬 ポロシリ岳（1846メートル）

1. 題材

- (1) 押し花を使って絵を作る（夏のポロシリ） 2学年
- (2) 木彫りのレリーフ（日高山嶺、三題） 3学年

2. 題材設定について

路端に生えている野草は、その種類だけで数百種、同じ葉でも形の大小はもちろん、厚肉のもの、透けて見える薄い葉、葉脈のはっきりしているもの等その形状、つくり、色は様々である。以前より押し花には関心を持っていたが、本格的に取り組んだのは、今回が初めてである。押し花を作り上げるまでは、大変な労苦を要するが、身近な素材に手を加え、未経験な中で新たな表現の感動を生徒に呼び起こさせたい。

次に、北海道には元来、ナラ、シラカバ、ニレ、カツラ、シナ、クルミ、エンジュ、カラマツ等豊富に産出され、当地方も例外ではない。

これは、ほとんど家具製品に使用され、美しい木目を生かして色々なもの（民芸品）に加工され、製品化されている。近くに木工団地があり、原材料が入手し易く、価格も安い。教材屋で扱っている素材は、統一・規格化されたものが多く、生徒の人数、実態に応じたものが少なく、そのため生徒の発想や計画、学習が深まらない場合がある。

3. 実践の概要

- (1) 押し花を使って絵を作る

ア. わらい

ふだん何気なく生活している身のまわりを見て、素材を発見し、押し花の作り方を理解させ、その美しさを味わせる。同じ主題「ポロシリ」を既に経験した描画、木版画と比較し、その素材の違い、特徴を理解し、ポロシリ岳の雄大さを再認識させる。

イ. 計画 12時間





- ・素材の収集 3時間
- ・押し花づくり 10日間
- ・原画づくり 1時間
- ・枠を付ける 2時間
- ・押し花を切ってはる 5時間
- ・仕上げ 1時間

ウ. 材料, 用具

- ・ラワンベニヤ (4mm) 300×450mm
- ・版用和紙(鳥の子)
- ・早モール 1本
- ・木工ゴンド
- ・のり
- ・各種押し花
- ・カッター
- ・ハサミ

エ. 実践を通して

今まで体験したことのない新しい作品づくりに終始意欲的であった。描画というより工芸的な要素が強く、どの素材をどの場面で使用すればより表現効果上がるかが一番の難点であった。(2) 木彫りレリーフ (3種) ・冬-男子2名一 ・夏-女子3名一

・秋-女子3名一

ア. わらい

浮き彫りには、極めて肉厚なものから丸彫りに近い高肉のものまでであるが、本題材では、中肉彫りを中心にわかりやすい表面処理方法を使って製作した。

木材独特のぬくもり、手触り等じかに感触する事により木に対する愛着心を深め、理解させた。又、完成までに至る過程を大切に考え、満足感を味わわせるようにした。のみ、彫刻刀を使うため、特に技術的な面での指導(特に女子)に重点をおいた。

イ. 計画 12時間

- ・日高連峰のデッサン 2時間
- ・グループでの検討, 下描き 2時間
- ・彫り 6時間
- ・仕上げ 2時間

ウ. 実践を通して

作業段階で刀の切れ、木目と刀の方向、表面処理等技術的な面を気を遣ったが、小人数のため十分に目が行き届き予定通りに運んだ。

完成した作品は、卒業作品として残るためいっぴく盛り上がった。

刀を使う一人ひとりの生徒の嬉々とした表情から、造形教育ならではの深い味わいを感じた。又、2~3人で協力し合って作業する事によって、他の分野(部活動等)での効果を期待したい。

ダンボールを使ったくす玉づくり

〈生徒会行事(引きつぎ集会での試み)〉

学校名 苫小牧市立光洋中学校  
氏名 佐藤真幸

〈はじめに〉

光洋中学校では、①卒業生が自ら中学校生活を振り返り、快く卒業の時を迎えることのできる心構えを持つようにする。②在校生が自分達の力で集会を企画・実行し、中学生としての自覚を持ち、実践力を持つようにする。③卒業生、在校生にとっての良い思い出を作り、良き伝統となるようにする。の目的を持って「引き継ぎ集会」を実施してきました。

この集会のプログラムに「贈る言葉」とともにくす玉を使うことになった。くす玉の中には在校生へ贈る言葉がかくされているという演出である。

〈ダンボールについて〉

ダンボールの作品の特徴である。①身長に近い大型造形、②共同制作が可能である。③作品の利用が容易である。といった要素を理解しながらの指導。

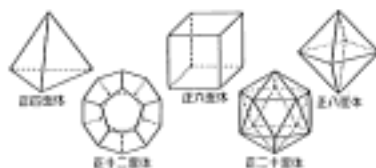
123×153cmのサイズを使う

1m以上の球体を作ること、長期に使用することを考えて二層ダンボールを使用し、均一な材料を求めるためにダンボール箱から材料を求めることはむずかしい。



〈平面から立体へ〉

①正多角形からできる。正多面体(1年数学より)5種類



②より球に近い多面体へ身近な物からの発見。ここでの

指導では、サッカーボールに注目させ、実際に正多面体の種類と数を生徒に調べさせる。

正五角形 — 12枚、正六角形 — 20枚。ただし一辺の長さは同じ。

③正多角形の作図とダンボールの切断

型板づくり — ベニヤ板を各一枚ずつ作る。作図は生徒でできる。

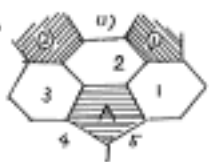
切る道具 — ①折刃式のクッターナイフ(市販)小型がつかいやすい。

②金のコブ。片側にビニールテープや粘着テープをまく。

〈ダンボールの接合〉

1. 木工ボンド、2. ひも、布製の平ひもがよい。

3. ガムテープの3つの方法があるが、ここでは、球体を半分切断することや着色と花かざりをつけることを考慮して西洋紙の紙ばりの方法をとる。\*ガムテープで一枚ずつなご合わせ小麦のりをつかって紙をはりつけている。



＝組立て順序＝

①五角形Aに1～5の六角形をつなぐ。②できた物に五角形と六角形を交互にはり合わせてゆく。以下自然と形がぴったり合わさってゆく。

つなぎ目の紙は細長くあらかじめ切っておく。また大きさの同じ紙も準備しておき間にはってゆくときれいにできる。

〈球体を半分にする〉

左の図のような部分を、クッター、あるいは金のコブで切ってゆくと半



分になる。さらに切り口、内側を紙できれいはってゆく。一辺が20cmのものを使うと、高さが約1mのものでさあがる。

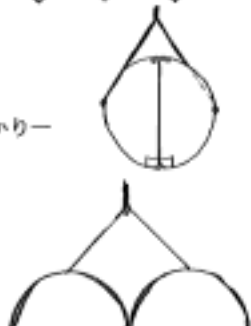


〈半球を一辺でつなぐ〉

〈ひもをとりつける〉

二個つなぐには糸入りのテープなどでしっかり一辺で固定し、さらに紙をはって補強する。

確実に開く（割る）ためには半球の頂点にひもをとりつけることが大切となる。くす玉の失敗の多くはうまく開かずひもが落ちてしまうので、ひもの位置と固定を確実にしなければならない。

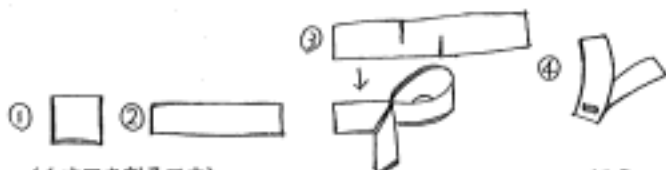


〈紙吹雪の工夫〉

失敗の多くは、にぎやかにしようとして一度に多量の紙吹雪を入れてしまい、一度にどさっと落ちてしまうことにある。①時間差で落下する。②あとしまつを考えて広範囲に広がらない。③回転しながら落下させる。

①広がりを出す。作りやすい。②時間がかかる早い回転。

③回転しながらゆっくり落ちる。④ホチキスどめ（もみじのプロペラ）



〈くす玉を割る工夫〉

くす玉の失敗の一つにうまくくす玉が割れずに、ひもが落ちてしまうことがある。

①止めを簡単にする。丈夫すぎたの失敗が多い。

②釣り用テグスをつかう（8号以上）切り糸

③ひもは落下するように。タレ幕のじゃま。

〈くす玉の取りつけとかざりつけ〉

体育館のバスケットリングにとりつけることが多いが、本来体育館には中央にワイヤと滑車の設備がほしいものである。

また、今回はくす玉の表面に花を紙でつくってかざりをつけた。

〈今後の工夫の方向〉

①紙吹雪のあとにたれ幕が落ちる。時間差をつける。二重構造の工夫。

②音をとり入れる。クラッカー（花火）との連動。パンと音がする。

③暗やみの中スポットライトでてらす。光の効果を考えて。

〈行事との結びつきで〉

①学級開きなどの行事で数多く作り、個々の目標を入れる。発表する。

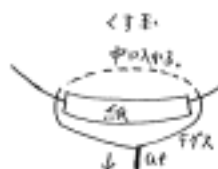
②紙吹雪に目じるしの紙を入れて、さがすゲームをする。

③運動会の種目の中に入れ、ゲームを創造させる。

④学級全体で子ども個人に1つ作らせ、造形あそびの発展を考える。

〈まとめ〉

ダンボールからくす玉。という課題をどう子どもにおろすのか。何を考えさせるのが指導の場合1番大切なことになるだろう。中学生では小さなヒントから、自分で調べ、自分で工夫をし、実験させることが大切である。



製作意欲を持続させる授業の試み  
ランプシェードの模型作りから（紙工）

学校名 室蘭市立北辰中学校  
氏名 佐藤 富貴子

最近の子どもたちは手のろい、無器用である、と言われて久しい。授業中、生徒たちは、特にやる気がない訳でもなく、怠けている訳でもないのに制作作業は遅々として進まない。子どもを取りまく生活環境の変化がこの結果をもたらしているに相違ないが、能率的でしかもていねいな制作を続けさせることに非常に困難を感じている。制作、発想の手だて等、自分ではいろいろと工夫しているつもりであるが、なぜか生徒達は自分の仕事のペースにこだわり続ける。特に発想の段階では、考えることイコール描くことであるという原則になかなか到らない。単なる手指の無器用さではなく、発想の乏しさが、進度の遅れをもたらしているように思う。

私は、ここ10年をふり返り、生徒達が、最後まで興味、関心を失わずに取り組めた素材は何であったか思い起こしてみた。ただひとつ、思い当たるのは、ランプシェードの制作（模型）であった。この題材は、いわゆる市内のカリキュラムにはないものであるが、生徒達が、精力的にしかも楽しみながら取り組むので捨てきれない題材である。

しかし、立体造形展などでも別格扱いされるように、これは、生徒の創造性を果して育成し得るものかを考える時、大事な「デザインする」段階で、多分に偶然性にまかせる部分が多いというのが私にとっては不安である。しかし、生徒が熱心に取り組む姿に今年も又、やりたいと思っている。

そこで、今、この提言を機会に、あらためてこの題材を見直し、果して生徒の創造性の育成に値するかどうかを検討したいと思います。この実践における指導案の提示により、提言とさせていただきます。

第3学年 美術科指導案

I. 題材名 紙工 ランプシェードの模型作り

II. 題材設定の理由

生徒達は、先輩達の作品を見て、一枚の紙からなぜこのような立体ができるのだろうかと思惑と不思議さを感じるようである。本当に自分達にも作れるのかとよく聞かれる。けれども、この題材は、根気強さといわぬいさがあれば、結構、生徒にとって満足のいく作品が出来るのである。ここが「創造性を育成し得るか」ということにかかわるのだが、デザインの考案を除いては、「線引き」「折り目つけ」「折る」という単純作業の繰り返しが多いので、多少、能力の劣る生徒でも、やる気さえ起こしてくれると結構美しいものを完成させることができる。

ランプシェードの役割を理解して、いろいろな空間の個性を生かした美しく機能的な形を引き出すために、アイディアスケッチを重ねるが、この場合、条件として左右対称であることが必要なので、生徒は、それ程、デザインの考案に骨を折らないようである。また、極端にこの能力に欠ける生徒であっても、前述の偶然性に頼り、いろいろ単票で折っていく中で美しい形を発見することが可能である。指導をする立場としては、能力差に応じた対応ができるので取り組みやすいということも言える。又、工芸の領域では、設備・施設・道具不足の問題をかかえる中で、この題材は、殆ど道具らしいものを必要としない長所もある。

III. 指導目標

- 1) 紙の性質を理解し、立体化のしくみを知る。
- 2) ランプシェードの役割を理解し、機能と美の調和のとれたデザイン



を考案する。

3) 制作方法を理解し、材料や用具の特性を生かして能率的でいいいな仕事ができるようになる。(巧緻性の訓練)

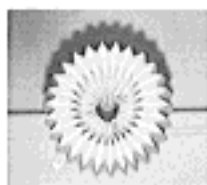
4) 制作の喜びを味わい、更に、実生活の生活空間に関心を高め、様々な工夫をこらすことができるようになる。

#### IV. 指導計画 — 12時間 —

内容は学習の展開で記述するので略します。

#### V. 準備


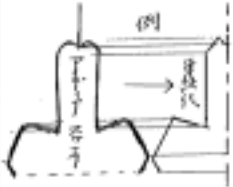

ミューズコットン紙(縦39cm, 横 110cm) 8色程





度

ニードル・ボンド・折りの練習用紙・参考作品・折りの説明図・定規  
スケッチブック・もめん針・もめん糸

#### VI. 学習の展開

学習の流れ	時間	学 習 活 動	生徒の動き・留意点
導入	1	・ランプシェードの役割や紙工について理解する。	・照明・装飾の2つの用途を知る。紙を折る、曲げる、繋ぐ事により立体化する事を知る。(体験する)
	1	・折るしくみを把握する。 	・一枚の紙に折り目をつけることによって立体化することを知り、山・谷折りを交互に繰り返しながらそのコツを体得する。(折の練習)
	2	・デザインを考案する。 ※左右対称であることを条件づける。 	・縦の寸法がデザインを決定することに気づく。 ・アイディアスケッチを数枚し、その中で決めたものについて直線で単純化する。 ・単表(図1)を二つ折にし、単純化したスケッチに合わせて折る。
	4	・寸法の割り出しと用紙(ミューズコットン紙)への転写。 	・用紙を横長におき、2cm間隔で縦に折り目をつける。 ・二つ折りの単表を開き、その折り目から縦の寸法(横線)と斜線を割り出す。 ・単表の寸法を用紙に転写し、横線は鉛筆で弱めにかき、斜線はニードルで正確に



		 <p>3</p> <p>・折る</p>	<p>折り目をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用紙の上下5mmに、横に折り目を付け、内側に糊付をして補強する。</li> <li>・まず縦を蛇腹折りにする。(きちんと折り重ねるよう注意)</li> <li>・最上段(又は最下段)から一段ごとに最後の行まで斜線を折り込む。(縦の折を段毎に逆に折り返していく。)</li> </ul>
	<p>1</p> <p>・立体化する</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両端を繋ぎ、糊付けをする。</li> <li>・最上段を糸ですくい適当な大きさにしぼり、中央に(垂直に)ひもを下げる。</li> </ul>	

#### 評 価

1. 自分が考案したデザインに折り上げることができたか。
2. 練習し、折り目をつける作業が正確に、能率的にできたか。
3. 日常生活における空間に関心を持ち工夫していく力がついたか。
4. 制作の喜びを味わい努力することのすばらしさを感じたか。

— 美術科指導における創造的活動の一考案 —

— 自我の探究による抽象彫刻の作制 —

学校名 北海道札幌南高等学校

氏名 小林 智彦

はじめに

一人間をイメージする一本単元のタイトルである。

人生のなかで最も感覚が鋭敏なこの時期にある生徒たちは、自我に目覚め始め、自己の在り方に疑問を抱きながら、自我の確立へ向かう、言わば子供と大人の過渡期的存在である。

孤独感や無力感の渦中において、他律の世界から自律の世界へと自我意識の高揚を通じ、自己の存在を確かめる時期なのであろう。

このような自己探究に踏み出す青年期の心のモニュメントを、青年期の心で捕らえた人間のイメージとして、抽象彫刻的な表現ができれば、と思いいこの単元を設定した。

五年前よりこの単元をカリキュラムに取り入れ、多くの問題点を残しつつも、試行錯誤を重ねながら、どうにかその形態らしきものが見えてきた段階である。

五年間の中で大きく変更した点が二つある。

まず、第一点は、発想のあしがかりとして、私が取材してきた、国内外の抽象彫刻のビデオ・スライドの導入である。

以前は、教科書の写真と解説に頼るところ大であったが、やはり、豊富な資料を提供することが、より一層イメージの広がりをもたせる起因の絶対的条件であることを実感している。

二点目としては、素材が柱の角材（90×90×200/mm）から、バルサの板材（90×28×200/mm）に変わったことである。

一年目に使用した柱は、とにかく“固い”の一言であった。複雑なフォルムに挑戦していた生徒は、ほとんどが計画倒れに終わり、大失敗であった。二年目はバルサの角材（90×90×200/mm）を使用した。軟らかく、加工しやすいものであるにもかかわらず、やはり切断場面で、その厚みに閉口し、途中で投げ出してしまう生徒が少なかった。

以上の経験から、現在はバルサの板材を使用している訳である。

さて、本単元は、人間のイメージの具現化ということで、かなり漠然とした問題提起である。しかし、青年期の最中にある生徒たちは、日常生活の中に様々な問題意識をかかえている。従って、理想と現実の葛藤の中から、人間のどのような部分に主題をもってゆくかは、彼ら自身、自ずと導かれることになるのかもしれない。また、その主題の設定においては、あくまでも生徒自身の自主性を尊重している。

このような点から、表現上の素材においても、バルサ材に固執することなく、必要とあらば、付帯的素材として、自己の表現に適したモノを、アッサンプラー・ジュの要素として用い、弾力的に取り入れることができるよう考慮している。

ともあれ、速度の難解性を保ちつつ、やはり、創ることの喜び、無心になって取り組める、そして楽しめる授業の一単元として、これからも改善を加えてゆきたいと思っている。

【本単元の目標】

- ・日常生活における精神的活動を多角的な視点からとらえ、そのイメージを立体的な作品として表現し、創造することの喜びを体験する。
- ・主題に基づいた個性的な表現内容を把握する。



・イメージを作品化するまでのプロセスを各段階に分け、計画的に発展させることにより、表現の理解を深める。

・表現材料の特性を知り、その効果について探究する。

#### 【授業の展開】

導入[20]⇒発想[30]⇒構想[40]⇒制作[80]  
(主題化する) (アゲイロかけ) 準備 (塗装を含む)

(エスキース  
第三角法による製図)

⇒鑑賞[30]⇒まとめ[10] (計 210) ※

III:50分

(合評会) (感想文、自己評価)

#### 【導入】

日常生活を通じて、生徒たちが、かかえている問題意識はどのようなものなのか、また、自分が理想としている自分とはどのような自分なのか、そのような私の問いかけから、この授業は始まる。

そして、それら様々な思いの中から、“人間をイメージする”にふさわしい主題を各自が設定する。この段階で、この単元が、その主題に基づいた抽象表現を立体的に表現する単元であることを、まず伝えておく。

次に、教科書(日文)の「母子像をつくる」、「表現について考える」を参考にムーアやブランクージなどの作家と作品の解説を行う。

ここで、特に、作家の言葉として、ブランクージの「…私としては、魚のイメージのひらめきをとらえたいと思ったのだ…」を熟読させ、本単元のイメージの在り方について考えさせる。また、ムーアについても、発想の段階で使用するスライドやVTRで、多くの作品を参考にしているので、この時点でムーアの人体彫刻がどのような過程を経て作品化しているのかを理解させ、同時に本単元の全体の流れと時間配分についても説明しておく。

導入段階の重点事項である主題性について考えさせ、苦悩・愛情・希望・孤独など、様々な要素は出てくるものの、この二時間の授業の中では、主題を決定するまでには到らない。

そこで、発想の時間を含めた中で、アイディアスケッチを重ねながら、次第に主題を絞りこんでゆけるよう、ある程度、時間の幅を持つよう考慮している。

#### 【発想】

1) バルサ材は、彫ったり、削ったりする加工の上では、とても扱いやすい材料ではあるが、反面、柱のような“彫りの手ごたえ”とでも言おうか「彫る」という意味においては、味わいが無いのが残念である。

また、細く、薄くというような加工をする場合は、堅牢性が乏しいため、途中で折れたり、割れたりすることがある。従って、生徒がフォルムをイメージする前に、加工上の難点を指導しておく。

2) あくまでも、バルサ材の特性を生かした作品の制作ではあるが、より豊かな造形活動を求めて、表現上必要ならば、付帯的にモノを付け加えることが可能であることにも触れておく。

以上の二項目について説明した後「例えば」と言うことで、各地で取材してきたスライドやVTRを見ることになる。

これらを見ている間は、スケッチブックのクロッキー用紙の部分を開かせておき、思いついた形を数多く描かせている。

約二時間程度見せているが、一時間をVTR、もう一時間をスライドに当てている。

VTRは、箱根の「彫刻の森美術館」と長野県の「美ヶ原高原美術館」



で取材して来たものである。作品のタイトルと、どのような素材が使われているかをコメントする程度に留め細かい説明はしていないが、作品のタイトルと作品自体の相関性の中にある作家のイメージの世界について着目させながら、生徒自身の見方で鑑賞するよう指導している。

スライドは、箱根、美ヶ原の両美術館に加え、大阪の国立国際美術館・ブリヂストン美術館・札幌の芸術の森で取材したものである。

この段階では、一点一点、じっくり鑑賞してゆきながら、私の観点から見た作品感など、必要される箇所では、作家の略歴、時代背景にも触れている。

また、生徒から出る質問は、本人もさることながら、周囲の生徒にとってもイメージしてゆくうえで参考になるので、積極的に取り上げている。

以上のような鑑賞の時間を通し、徐々にではあるが、クロッキー用紙に具体的なイメージが描かれてゆくことになる。

一方、鑑賞している作品がプロの作品であることから、イメージの苦手な生徒にとっては、“雲の上”的な意図が強く働いてしまう。そこで、最後の鑑賞教材として、過年度の生徒たちが作った作品を見せることになる。完成度の高い作品、失敗した作品、生徒の感想文などをコメントしながら数点の作品を見せていくうちに、だいたいまとまってくるようである。

発想の最終的な段階で、生徒の個別指導に入る。一人、五分度でアイディアスケッチを見ながら、「ほー、この形いいね。」「ここは大丈夫かなー。」「もう一度考えてみたら？」などの対話が続く。つまり、生徒と私の用紙をはさんでのらめっこの時間帯である。

何を表現しようとしているのか、その表現方法に問題はないか、あるいは付帯的に、必要と考えているモノが、作品として耐え得るものかなど、十分に検討させている。

とにかく、徹底的に、見せ、手で考えさせる。発想の手段を講じている訳である。

#### 〔構想・準備〕

構想の段階では、アイディアスケッチを基に、エスキース（鉛筆デッサン）と第三角法による製図を制作させている。

まず、エスキースであるが、生徒は、一年次に鉛筆デッサンを履修しているので、量感、空間、質感など、ある程度心得ている。アイディアスケッチを参考に、スケッチブックの画用紙に、ほぼ原寸大で描かせている。

このエスキースは、イメージをより確かなフォルムとして表現させ、制作中の迷いを生じさせないためにも、ぜひ必要な制作である。

しかし、平面的な作業故、描かれている裏側の形など、ついおろそかになりがちなので、気を付けなければならない。

発想の段階において、“立体表現で360°どの方向から見てもバランスがとれてなければいけない”ということは何度か注意していることだが、エスキースを描いている途中で、このことに気づき、アイディアスケッチと違うフォルムにすることを申し出てくる生徒も少なくない。

また最終的にバルサ材以外のモノを使う生徒は、この段階で、何を、どの部分にどれぐらい使用するのかを確認させておく必要がある。

第三角法では、上記の裏側の形の確認、三枚の板から有効に材料を切り出すための寸法の確認などに留意させながら、原寸（作品の大きさによっては、縮尺、倍尺する）で制作させている。＊第一角法と第三角法がある

#### 《発想段階の授業の流れ》

素材を加工する上での観点を提示

●

VTR（生徒の思いのままに鑑賞）

●

スライド作品、作家のコンセプトを解説

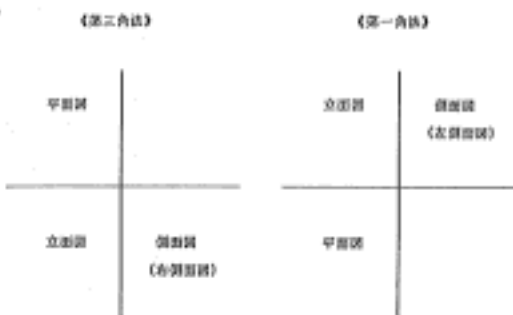
●

生徒の参考作品を提示

●

個別指導により進捗を確認

が、第一角法では、上から見た平面図を立面図の下側に描き、左側から見た左側面図を正面図の右側に描き表すので、作品が長い場合は、正面図と側面図を対照するのに不便である。



一方、第三角法

では、第一角法の場合とまったく逆で、作品を展開した上体に各投影図が配置され、対照に便利である。

#### 【制作】

いよいよ、加工段階に入る訳だが、私の方で用意するものは、糸のこ・胴つきのこ・きりである。加工上、必要であると判断した場合は、工芸室の機械を借りることもある。生徒には、カッター・彫刻刀・ヤスリ・木工用接着剤の他、制作していく上で便利な道具があれば持参させている。

(1)第三角法を参考にしながら、バルサ材に木取り線を引かせる。三枚の板材の色や木目の美しさにも着目させながら、廃材の量を最小限におさえられるよう検討させる。

(2)材料を切り出し、№100程度の耐水性ヤスリで大きなフォルムを削り出す。カッターや彫刻刀よりヤスリの方が作業がきれいに、しかも早く進む場合が多い。

(3)各部品になっている材料を接着剤でつなぎ合わせる。形によっては、補強するために、ピアノ線・竹ひご・針金が必要になってくる。ある程度、接着が終わったら、№400程度のヤスリで接着面のズレなどを形成してゆく。

この段階で、すべて組み上げてしまうと、仕上げのヤスリがかけにくくなったり、塗装しにくくなる場合があるので要注意である。

また、木工用接着剤(水性)を広い面に塗布する場合には、水で三分の一程度薄めないで、表面に接着剤の層が見えてしまうことがあるので、指導が必要である。

(4)仕上げ用のヤスリ№1200を、表面に少々光沢が出る程度まで、丁寧に掛けてゆく。この作業が粗いと塗料の思うような効果が得られないことが多い。

(5)最後の塗装になるが、塗料はクリヤラッカーとウレタン塗料の二種類を用意しておく。

これらは生徒の好みに応じて使用させている。

生徒に、ガラスの容器を用意させ、私がその中に塗料と溶剤を入れている。三〜四回ほど、重ねてゆくと適度な光沢が得られる。一度に、たくさん塗りすぎてべとべ

【制作の手順】	【制作に必要な道具、材料】
バルサの板別に木取り線	【数冊】
【板図】を記入する	糸のこ
+	胴つきのこ
材料を切り出し、成形する	ヤスリ
【№100のヤスリ】	ペンチ
+	塗料
主な部分接着、成形する	
【№400のヤスリ】	
+	
形を仕上げ、成形する	
【№1200のヤスリ】	
+	
塗 装	

クリヤラッカーとウレタン塗料の二種類を用意しておく。これらは生徒の好みに応じて使用させている。生徒に、ガラスの容器を用意させ、私がその中に塗料と溶剤を入れている。三〜四回ほど、重ねてゆくと適度な光沢が得られる。一度に、たくさん塗りすぎてべとべ

トにならめよう、注意が必要である。

#### 【鑑賞】

合評会では、各自一人ずつ前に出て、自分の作品について、どのようなことをイメージして制作したか、また、工夫・努力・失敗した点などについて発表させている。

一方、聴いている者の中から一、二人にその作品について感想や質問を自由に述べさせている。

このようなさまざまな意見や感想が出る中で、より深く、より広い創造の世界が広がってくれることを願っている。

#### 【まとめ】

この単元全般について、合評会で話しきれなかったことを含めて、感想文を書かせている。この感想文は、作品の制作について、得意、不得意があるため、表現上のフォローする手段として、必要と考えている。

私自身、この感想文を読む中で、個々の生徒の目に見えない、みずみずしい感性に感動することが度々あり、改めて棚の中にある作品を手にとって眺めさせてもらうことがある。

#### 【反省と課題】

・発表の段階で使用するスライド、VTRを見直しながら、より参考になる多くの作品を見せてやりたいと思っている。そのためにも、今後とも取材を続けなければ、と考えている。

一方、これらの鑑賞による発想のアプローチが、はたして適切な指導なのかを問われると、まったく自信がない。もっとも生徒自身の中で昇華してゆける方法があるのではないだろうか。

・エスキースをあえて、鉛筆デッサンで行っているのだが、粘土などを使用することもできる。どちらがより効果的手段であるのか。

・この単元に限ったことではないが、評価基準をどのように設定すれば良いのか、とりわけ、このイメージを扱う単元では非常に頭をかかえるところである。

以上のような問題をかかえつつも、毎年生徒たちが、悪戦苦闘しながら無心になって作り上げてゆく作品を指導する中で、生徒がより一層、創造の世界を広く、深く、味わうことのできる単元として、私自身、教材研究を深めてゆかなければならないと思っている。

学校名 北海道苫小牧西高等学校  
氏名 成田 俊 哉

私は美術教師として1年と数ヶ月授業を行ってきたが、いまだ毎日が失敗の連続である。それと同時に自分の力のなさを痛感し、悩みも絶えないのである。その数多くの悩みの中からここでは「子ども達のもっている創造力、発想の豊かさを最大限引き伸ばすにはどのようにしたらよいか」というテーマで考えたい。

私は常々、美術の授業の中で子ども達に大きく分けて2つの事を中心に指導していきたいと考えている。それは、ものをしっかりみる目、観察できる目を育てる事と、豊かな発想を伸ばすという事である。特に子ども達には若々しい発想、子どもならではの豊かな発想を期待し、その為になるべく時間をさくようにしている。しかし、実践を通してみると、こちらの期待に反し、技術的にはきっちり仕上げられているのだが、平凡な構成、全員が同じような発想でがっかりしてしまうのである。

実践例として挙げると、人物の顔の平面構成などをやらせるとある程度きれいに仕上げる。ここでの平面構成は形にあまりこだわらせないように人の顔写真(雑誌の切りめき)またはコピーを陰影をもとに平面に処理しながらトレスさせる。もちろん形にこだわらせないとはいえ、平面への処理の仕方などは、

考えながらやらないとうまくいかない。複雑になりすぎたり、単純になりすぎたりで、全体のバランスが崩れるからである。これを2枚つくり、明暗2種類の彩色させる。細かい作業ではあるが思いのほか根気強く丁寧に仕上げる子が多かった。

ところが、スケッチブックの表紙制作で意外な事に気付いたのである。ここでは条件を特に設けず、自分がこんなスケッチブックが欲しいというデザインのもの自由制作するというものだ。ここでも、平面構成の時と同じく図



平面構成生徒作品

表紙デザイン  
生徒作品

柄はきれいに彩色され、レタリングもバランスの良いものになっている。しかし、どれも同じ感じのデザインになってしまうのである。特に漫画の影響もありほとんどがどこかのマンガから拝借してきたと思われるものである。こちらの意図としては、自分の個性を出したオリジナルのものを期待したのだが、子ども達の考えはそれに反して売り物と同じのが良いのである。

これらのことについて考えてみると、現在の生活環境が多分に影響しているように思われる。マンガ世代と言われる子ども達はマンガに慣れ親しみ、身近なものなのだ。そしてそのマンガのついたキャラクターグッズが子ども達の欲しいデザインなのだ。また、子ども達の周りには美しく飾られた品々が出回っており、その中から自分の欲しいデザインのものを選べばよいのである。この事がもの見方考え方を受身にし、自分の中から新しい物を生み出そうとする能動的、積極的な能力を衰退させていると考えられる。

このような状態にある子ども達になんとか、新鮮な発想ができるように試みたのがレコードジャケット制作である。それも単なるイラストのようなものでデザインするものではない。まず、自分の好きな歌手や映画のイメージから「派手で賑やか」「しっとりとして静かなイメージ」などのテーマを決める。そのテーマに基づいて、雑誌の切り抜きなどでカラーズによるデザインをしていく。

なぜここでカラーズを利用したかということ大きく3つの理由がある。まず、自由に切り抜いたものを簡単に組み合わせることができるので、こうした方がいいんじゃないか、違ったものをくっつけてみようなど多くの事を発想しやすい。第2に、いろいろ組み合わせを試しているうちに偶然おもしろい形ができたりし、新しい発見ができる。第3に、イメージはわいてくるのだが、それを自分の思っているように表現できない子どもも描く技術にあまりとらわれる事なく取り組めるという3つである。結果はこちらの思わく通りとはいかないまでも、面白いと思わせる作品が多く出てきた。フォトモンタージュや配置転換により、テーマに沿ったものが不思議な形となって表現されている。

現在はここまでの段階で終わっている。そこで今後の課題として、ここでできた新しいイメージ、発想を自分なりの表現として発展させ、これからの単元につなげることである。その為の具体的なものはまだしっかりと固まってはいない。しかし、その方法として最初のうちは、条件を多く提示しある程度道すじをつけてやり、徐々に条件を少なくした課題にした方が、子どもとしてもやりやすく、また、わかりやすいのではないだろうか。もちろん、それぞれの単元が、関連性をもたなければならない。そして、私もこれらのパターンを早く自分のものにしたいものである。

学校名 苫小牧市立豊川小学校  
氏名 徳田 幸次郎

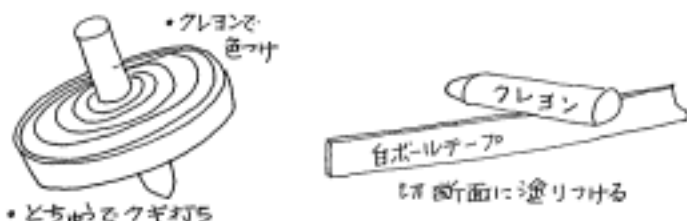
はじめに

“手のムシ割”が叫ばれはじめてから、もう、かなりたちますが、どうでしょう…。子どもたちを、図工に意欲的にとりくませ、そして、確かな技術を身につけさせていくために、図工科も狭い教科書のワク内にとどまることなく、広い視野でポピュラーな題材を掘りおこしていかなくてはならないでしょう。そして、それが集団的な検証をもとに根づくことが大切な時期になっていると思われます。このような考えのもと、今までの実践をふり返りながら、子どもたちの意欲的な活動をうながす題材をひろってみました。先生方のご意見をおねがいたします。

1. 子どもたちをハッチャキにさせる教材アレコレ

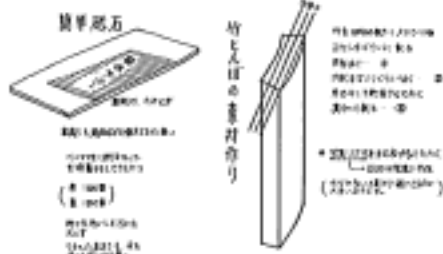
(1) 厚紙まきコマ

ラミン丸棒に方眼工作紙をテープ状にハサミで切って接着しながら巻きつけてできるコマ。ちょっと巻いては回してみたくなる子どもたち。「よし、もう少し巻くともっと回るぞ!」という意欲をかりたてる教材です。



図紙トンボと、ひねり竹トンボ

白ボール紙のはね、ストローの軸で簡単にでき、どうすれば、どうなるかがすぐにわかる紙トンボ。それがわかれば、うすい竹の板を曲げてできるひねり竹トンボに挑戦してみよう。より高く、より時間が長くと、子どもたちの心をひきつける教材でしょう。



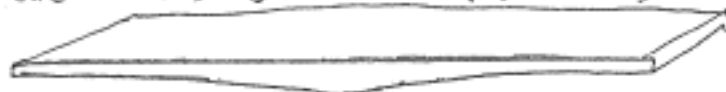
# ひねり マツノボの作り方

豊川小6年  
(4時間)

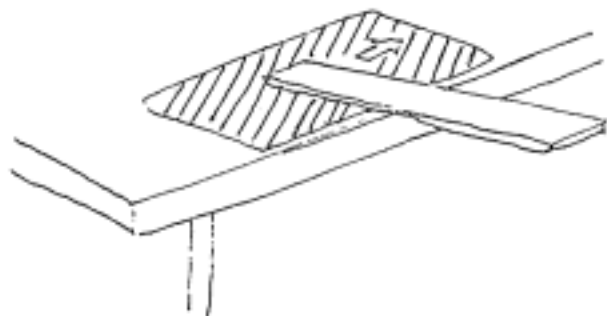
## (1) 竹をうすく削る



- できほこの少い面をまず平らに小刀で削る  
次にフラを削っていく
- まんなかは多少厚くてもよい。両側は1.5ミリくらいになるように

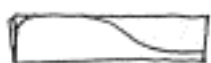
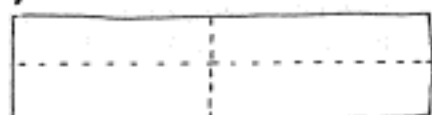


- 布ヤスリで仕上げる

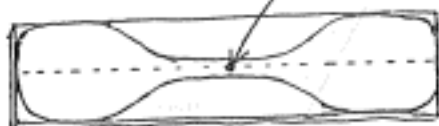


中目ヤスリも学校に  
そろえていもの

(2) 型紙を作。て板に貼る



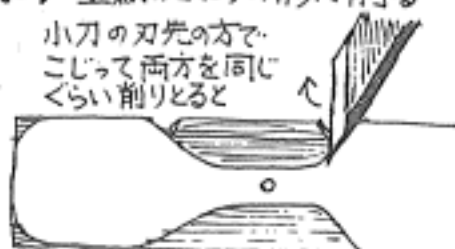
• 紙を折って型紙を切る



• 板にのりをつける • 穴をキリであける(斜めがよい)

(3) 型紙のとおりの形に削る

小刀の刃先の方で  
こじって両方を同じ  
くらい削りとると



竹のすじにそって割れてとれる

バランスの比率



(4) 軸を接着する

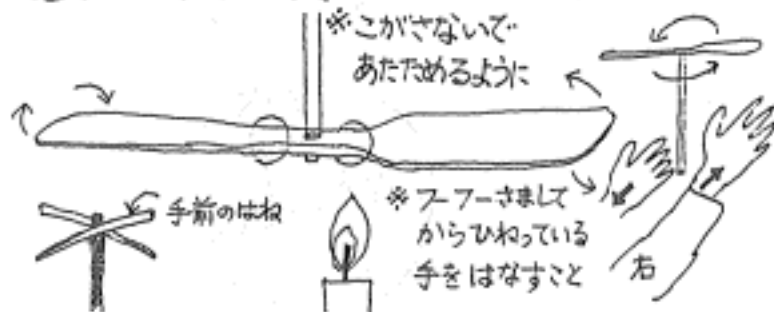
盛りつけるように

片はあとで削り取る  
垂直に接着

竹串がよい  
(3mm竹串)

★エポキシ系接着剤

(5) ローソクの炎に近づけて曲げる



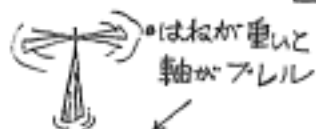
※こがさないで  
あたためるように

※スーフさまして  
からひねっている  
手をはなすこと

手前のはね

右

(6) バランスの調整



はねを削る

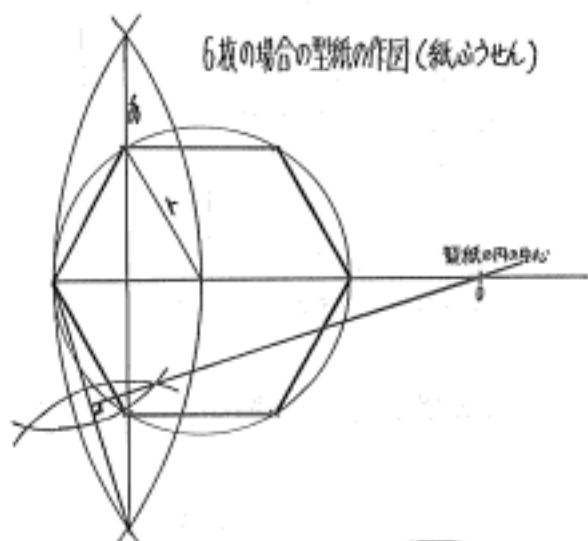
• 軸が重そうな時は  
軸を細身に削る



(3) 紙ふうせん、熱気球

紙ふうせんを作って遊ぶ。「いくつついていれるかな?」「友だちとバレーボールあそびをしよう!」そして、そこで高めた技術を生かして熱気球に挑戦だ。1年生歓迎集会、卒業生を送る集会で高学年のうでまえをみせつけよう!兄弟学級へのプレゼントにもよろこばれる紙ふうせんです。

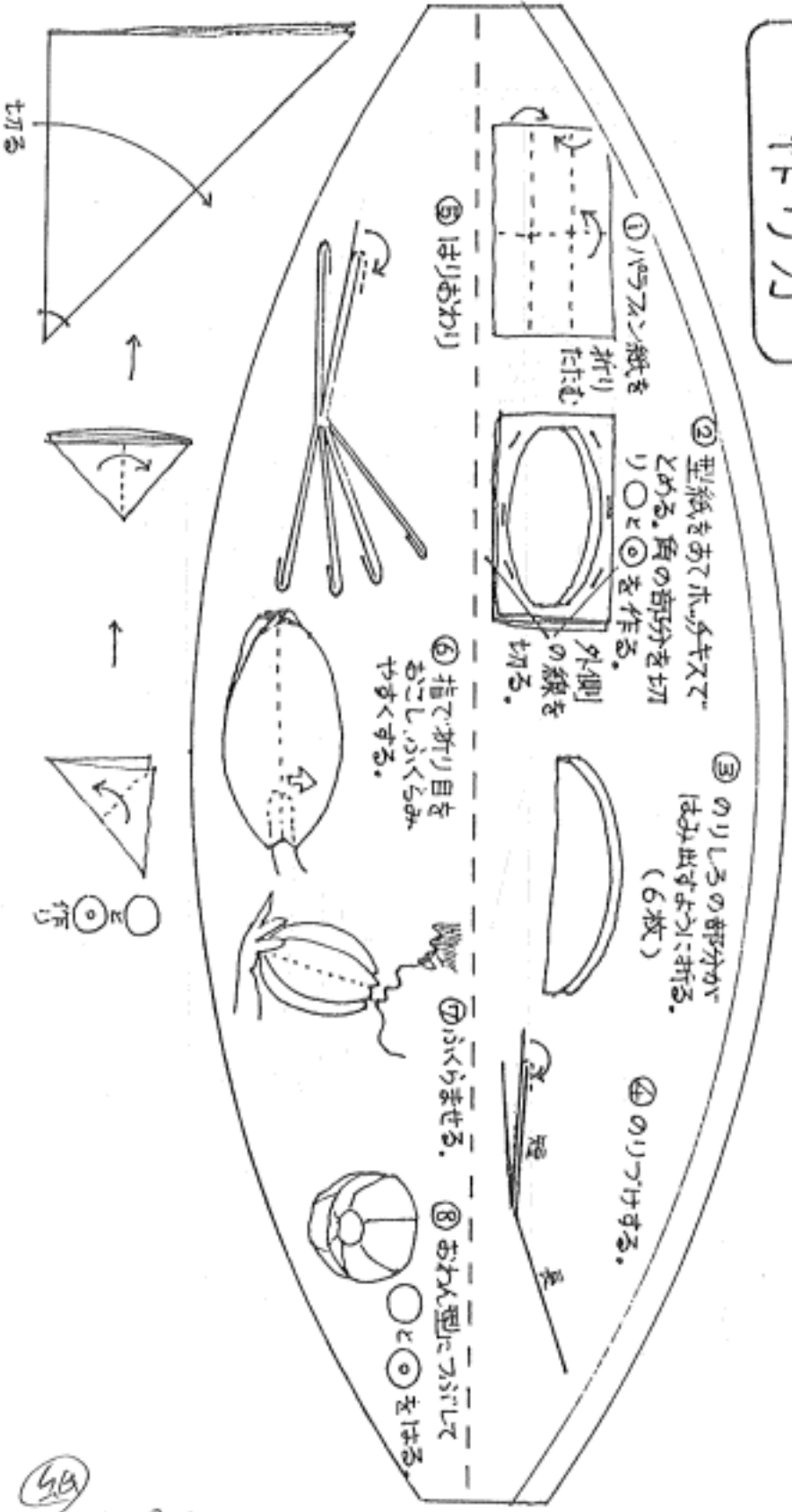
6枚の場合の型紙の作図(紙ふうせん)



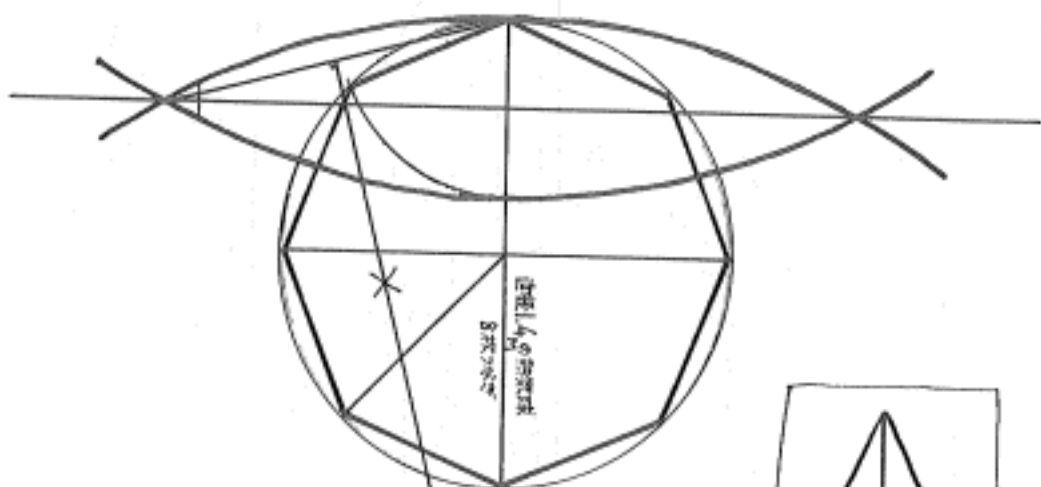
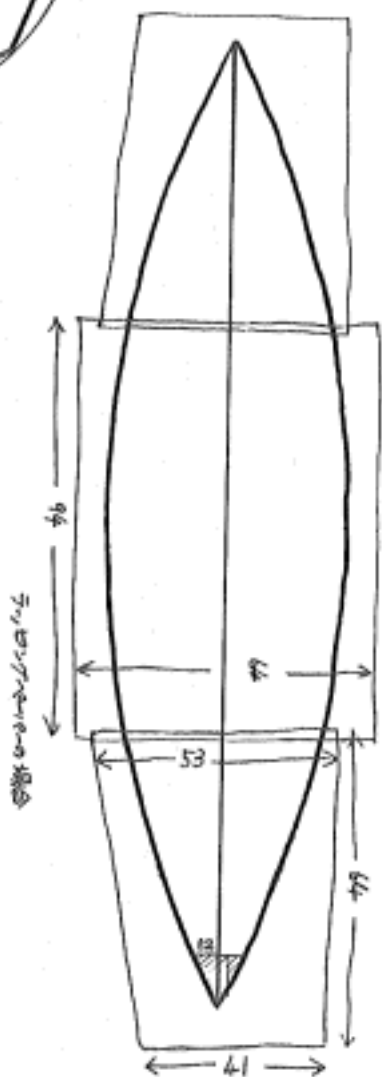
紙ふうせん  
10

# 紙風船の作り方

紙フェスタバル。とまごまい。



58  
からこ



半径  $r = 22.6 \text{ cm}$

(熱気球)に用いる紙 (94 x 54) 64cm @20 x 32枚 ← (SPECIA 1000円)

フウゴウフク用紙 (64 x 94) 960円 @60 x 16枚

(熱気球) 用紙 (78 x 50)

紙 (78 x 148)

825

← (SPECIA 7500円)

(477円)

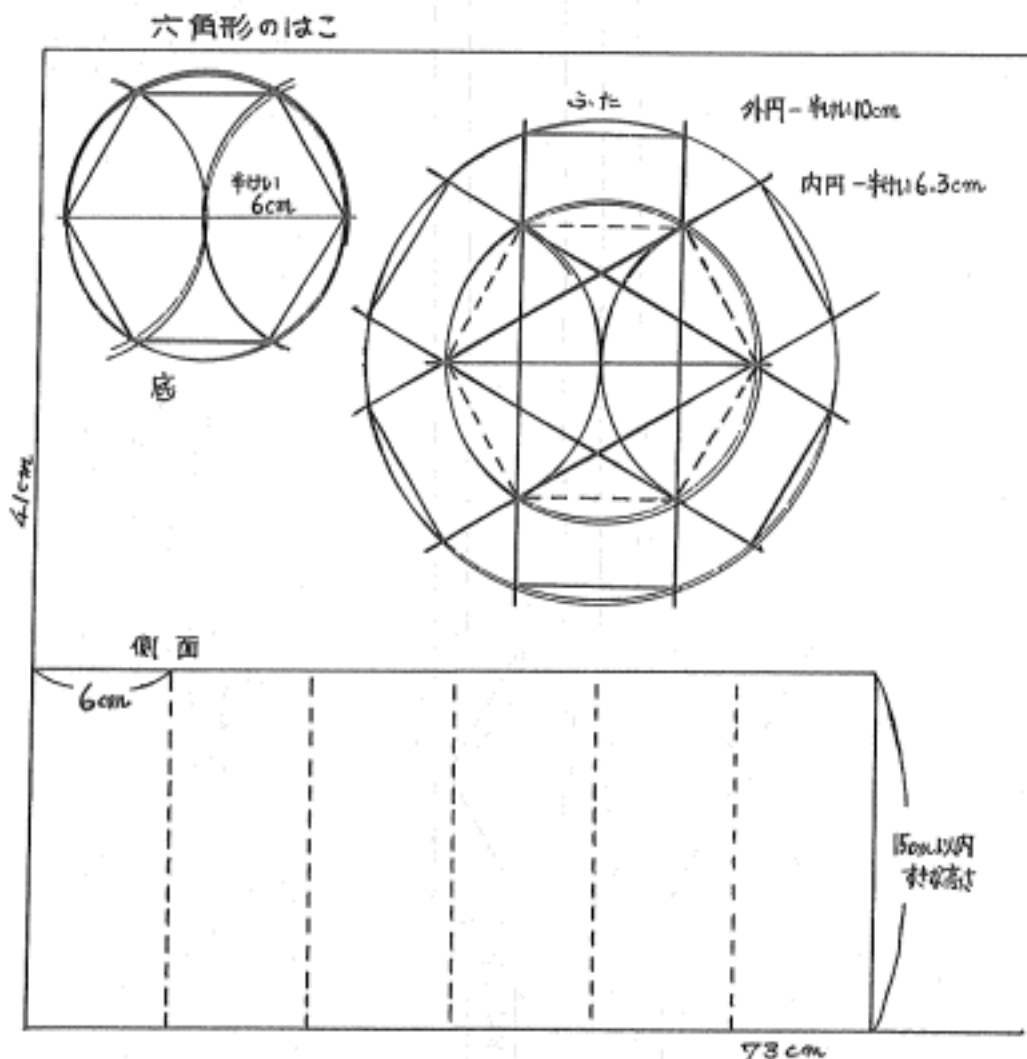
## 熱気球の型紙作図

## 2. 教材のアレンジ — 六角形の箱

伝統的な折り染の学習。実用的な素材えらび、六角形の箱のむだのない作図。そして、麦粉のり貼りの要領を学習するために現5年生の教材をアレンジしてみました。

厚紙はハームレスボール紙  $\frac{1}{2}$

※ ねずみ色の布に図をかき



紙のTV  
六角形のはこ 豊洲5年

作り染めをとりかえてみよ

- じかに印刷する作り染めです。
- やり直しはきく、失敗が多い。
- 日本文化の伝承です
- お手紙のりや封筒、封筒を教えるのに適している。
- 六角形が作図の要領に六角形100%ではとがハブ (深み感あり)

材料

障子紙  
約20cm×25cm巾  
50cm2枚 (1人分)  
字紙 2巻  
520R×2

厚紙

ハニエ紙・北紙  
片面が白と赤の紙  
97×82を半切  
73×41cm (1人分)  
45R

染料

夕日コンパネ  
赤 (A-14)  
青 (A-18)  
黒 (A-22)  
字紙各1巻×2巻  
400R×3

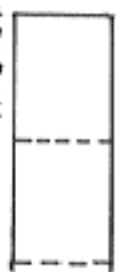
作り染め

次は3折のみ

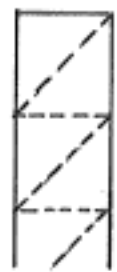


2LT

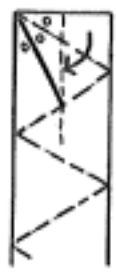
① 四角形作り



② 六角形作り

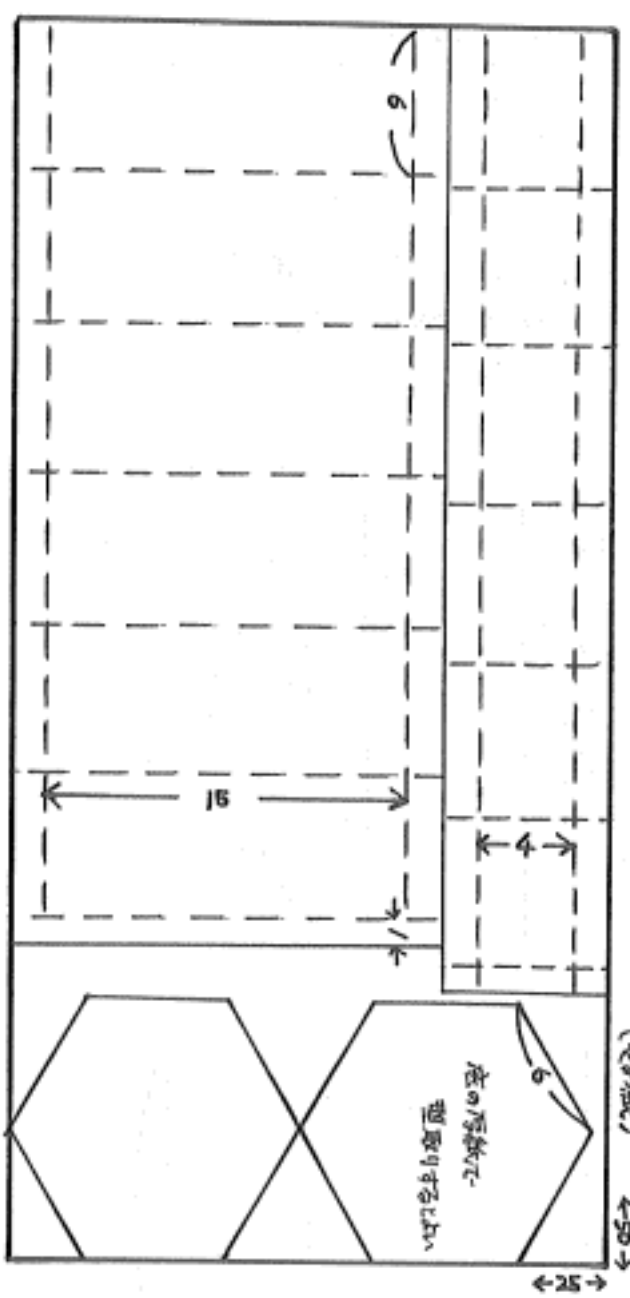


③ 正三角形作り



手順配当

- 1 } 作り
- 2 } 染め
- 3 } 箱作り (内面)
- 4 } 箱作り (外面)
- 5 } 箱作り (裏紙)
- 7 } 組み立て



おわりに

今までのとりくみの中から一部をピックアップしてみました。なお、ここに掲げた教材については池本良三氏、森康博氏、斉藤恵氏の実践、現代美術社の教材などからも多くの示唆を受けているものであることを付記しておきます。私自身がこの機会にさらに新しいアイデアやヒントを得られる研究集会であることを期待しております。

○ いろいろな教材に 児童の工夫の部分が必ずあるか  
求むか。

○ 技術的な知識はついでに身につくか。

発展性のある 創造の部分が必ずあるか  
と思う。

※ 4つほど → 形の工夫、大きさの工夫、材質の工夫。

※ 水筒 →

※ 紙 →

※ 箱 →

技術 →

試作 → 制作

# ●分科会小学

## 紙を使っての造形

学校名 千歳市立信濃小学校

氏名 鳥田 茂

3学年では、紙を使った題材として、「お知らせカード」「まよい道」「住んでみたい部屋」「グライダー」等があるが、以前から基本的な技法指導を段階的におこなったうえで紙工作をさせてみたいと考えていたので、今回思い切って12時間を費やし取り組んでみた。

指導計画は次の通りである。

値写のツマミは？

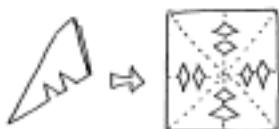
- |         |                    |
|---------|--------------------|
| 1時間め    | ハサミの使い方            |
| 2～3時間め  | カッターナイフの使い方        |
| 4時間め    | 折紙を使ったデザイン(まど作り)   |
| 5～6時間め  | 紙の性質と接着剤の使い方       |
| 7～8時間め  | 紙工作(1枚の紙から立体の顔を作る) |
| 9～12時間め | 紙工作(自分で工夫して)       |

次に指導の経過と実態について詳しく述べてみたいと思う。

最初に取り組んだ「ハサミ」の指導は、3年生段階ですでに慣れているのか、スムーズに指導が進んだ。特に、曲線を切る場合、紙の方を回すことを意識させた。

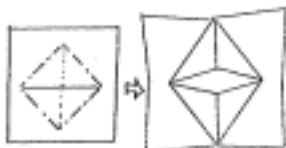
一方、「カッターナイフ」は買ってもらわないと用意できない子もおり、またカッターマットについても粘土版の裏がそれになっていることさえ知らない子もいて、この道具に対しては普段あまりなじんでいないのが察せられた。刃を出しすぎないことや持ち方や切り方を指導した後、紙を折る時には「折らずじ(折り線)」をつけるときれいに作業できることに気づかせ、くり返し練習させた。

ここまでの指導では、必然的に「ハサミ」より「カッターナイフ」に力点がおかれた。そこでカッターナイフに慣れた所で平面デザインの「まど作り」をする。折紙で何度もためし、自分のイメージに合ったものが出来るまで続けるよう指示した。ハサミを使用しても良いと言ったが、ほとんどの子はカッターナイフを使用していた。黒の台紙に張り付ける際に、接着剤をつける時の指の使い方を指導した。



それから「紙の性質」について軽くふれ、切りこみや折り方・まるめ方などを工夫すると1枚の紙から丈夫な立体ができることに気づかせ、その後、印刷した困用紙をもとにいくつかのパターンを練習する。この時も黒の台紙に張り付ける段階で、面接着・線接着や少しかわかしてから接着するなど指導した。

2つめの作品は顔の立体を作る。ここでは切りこみや折り方を主に工夫して、1枚の紙から「立体の顔」を作る。子どもたちは当然のように目や口などにその立体性を求めた。苦勞していたが、そのうち作った口など動かして遊んだりしながら取り組んでいた。仕上げは折紙を使った。そしていよいよ、最終目標の紙工作に取りかかる。前もって今回指導できなかった、まるめる・2つ折り・重ね



○技法指導の順序性。  
手の器用な紙。

○折り紙の指。

・指導指導の必要はなさそう。  
(しかし、紙の子供の指導は  
肉体的に心、なと紙。  
定食か、米、汗、中から発見  
持たせ、場面をつくり、  
なにか、あいつ、必要  
から工夫するといふ場面も  
(くたせなそう)。



るなどの技法について紹介した。その後、今回作ってみたい紙工作の下絵を描かせた。動物・花・葉物等、特に1つにしばらなかつた。何故なら、ハサミやカッターナイフの練習・顔作りなどを行っているうちに、子どもたちの間から作りたいもののつづやきが聞こえたからである。結局は、子どもの興味の関係から動物がいちばん多く、次に花という順になった。



やはり最初は苦労していたが最後まで集中し、粘り強く作業していた。「動物とかだったら全身まで作るように」と「今まで学習したことを生かして」と指示したが、後者については子どもたちなりに「立体」を意識し、顔に切りこみや折りを入れて取り組んでいたし、体はまるめたり、2つ折りを利用して厚みをつけたりなどの工夫をしていた。

ここで作り終わっての子どもたちの感想をのせることにしたい。

・私は、紙工作で「ヒマワリ」を作りました。今までの工作より上手になったと思います。カッターもハサミも上手になりました。ヒマワリのまるい所だけ模様づけができませんでした。だから今度は、もっと上手に作りたいと思います。  
(村山 麻衣)

・僕は今日の工作で苦労したことがありました。それは三角のものをつける時です。前やった折紙で作ったものができたけど、模様が足りないからつけてみたら、すごくきれいにできました。カッターやハサミの使い方もうまくできるようになりました。とてもおもしろかったです。  
(村中 建詞)

・僕は「紙工作なんてかんたんだ」と思っていたけど、そんなにかんたんなものじゃありませんでした。紙の性質やカッターやハサミのりの使い方の工夫のやり方などいろいろなことがわかりました。  
(津田 高明)

・今までの紙工作でいろんなことをしました。お花を作ったり、ハサミ・カッターナイフの勉強など。なかでもカッターナイフで円を切るのがいちばんたいへんでした。園工はきれいだったけど今は大きいです。  
(鈴木 寛子)

さて、振り返って今回課題として残るのは、次の2点である。1つめは、接着剤の指導の不十分さである。よごれている作品もあったし、接着剤のえらび方についてこちらの考えをまとめておく必要があった。2つめは、紙工作の目標やテーマについてであるが、今回は技法指導に力点をおいたため作るものの種類について規制はしなかった。また紙工作をいずれおこなうと言ったが、紙工作のねらいについては最初あまりふれなかった。以上のことから、目標やテーマのおさえを事前にきちんと整理しておく必要があったように思う。

この実践を通して最後に言えることは、30数名の中で今回は失敗したという感想の子が1人だけだったが、概して子どもたちなりにある程度の満足感を持ってくれたように思う。まず何よりもカッターナイフに対する親しみを持ってくれたこと、紙を使いこなすことに対して考えが一步進んだことが成果であったと今思う。そしてこれから機会あるごとに、さらに自分なりの工夫を加えてほしいと考えている。



# これだけは知っていたい紙の技法

## Ⅱ ハサミの使い方 基本姿勢

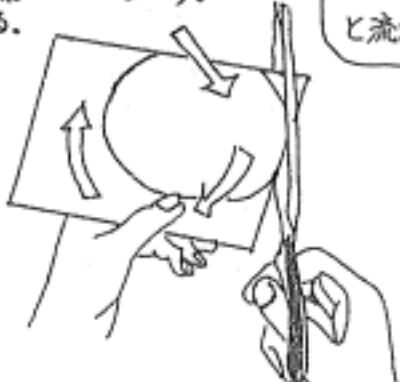
右手の腕は、わきにつけ、ハサミは鼻筋に合わせてまっすぐ  
に持つ。



ひじをつけて、安定  
させる。

はなの線に  
合わせる。

紙の方を  
まわす。



手の大きさに  
合ったにぎりのもの  
を持つ。

チョッキン、チョッキンはだめ！  
チョキチョキチョキ  
と流れるように！！

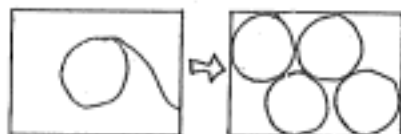
刃の先まで  
使わない。



③ 人にわたす時は、刃先を手前にしてにぎりの方を人に向ける。

形を切り取るときは、

かならず紙のはじから使う。



これでは、1まい  
しかとれない。

4まいもとれる。

ふくざつな形は、はじめに大まかな形を  
切り取り、次にこまかく切り取っていく。

切りぬくための下絵も、

紙のはじからかく  
習慣をつける。



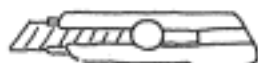
大まかな形に  
切り取る。

ハサミは動かさ  
ないで、紙を動  
かしながら、紙に  
そって切り取る。



② **カッターナイフの使い方** ③ 刃物をわたす時は、刃を手前にしてわたす。

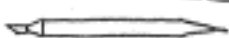
**えらび方は**



大型のカッターナイフ ⇒ うすいバニヤ板や段ボールを切るのによい。



ふつうのカッターナイフ ⇒ 画用紙など、中学紙までの厚さの紙を切るのによい。



切りぬき用のカッターナイフ ⇒ 切りぬきや細かい細工に適している。曲線を切るのによい。

**持ち方と切り方は**



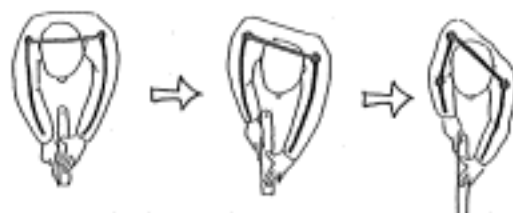
えんぴつの持ち方と同じで、正面から見たとき、垂直になるようにする。

- 刃を出しすぎない。(1~2目もりぐらい出す。)
- 切るときは、カッターマットなどを下に敷いて切る。

- カッターナイフの真上に顔がくるような姿勢で、刃が横にかたむかないようにして、体全体を使って引くように切る。(手首はなるべく動かさない。)
- (立ち上がった方がやりやすい時は、立って切る。)



うすい紙や長い線を切るときは、上のような持ち方もよい。



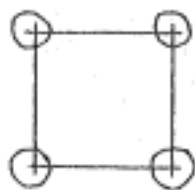
**曲線を切るとき**

カッターナイフの刃を、手前に引くようにして切る。そのために紙の向きをかえたり、紙を少しずつ動かすようにして切る。



厚手の紙  
少し刃を立てて切る。  
1回で切れないときは、くりかえす。

うすい紙  
刃の角度を少し  
ねかせて切る。



交わるように  
長めに切ると、  
かどがきれいに切れる。

### ③ 紙のせいしつ

紙は一度折ったら、折り目がとれない。



- しわにならないように大切に折る。
- 折る前にもう一度たしおめる。

折りめ以外に しわをつけないように折る。



少しずつ折らないで、いっきに折るのがコツ。

曲線に折ると 曲面ができる。



紙には、たて目とよこ目がある。



- 画用紙は、あまりはっきりしていない。
- うすい紙をまるめるときは、これを知らないとうまくいかない。

まるめるときは、紙の張りをころしてまるめる。



ものさしやテーブルの角を利用するとよい。



## ④ 接着剤の使い方

### 面接着と線接着

切り口に接着剤をつけて、接着すればのりしろがいらぬ。(線接着)  
接着面は広いにこしたことはない。

たいていの接着剤は、教分間かわかして接着する方がよい。

いち、にーい、さん……  
……………ひやく

接着剤はかならず、のり下紙(新聞紙など)の上で指を使ってのばす。

のりをつける指は、一本(中指かくすり指)に決め、教を持つ指と区別する。



親指と人さし指は、  
きれいにしておこう。

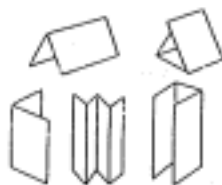
接着する材料に合った接着剤をえらぶ。

### (早見表)

	金 属	陶 磁 器	ガ ラ ス	水 化 粧 板	硬 質 プラスチック	発 包 スチロール	ビ ニ ル	ゴ ム
紙・ボール紙	ハイ コンタクト	ハイ コンタクト コンクリメント	ハイ コンタクト	ハイコンタ クトホワイト	ハイ コンタクト	コンクリメ ントホワイト	ビニル用	ハイ コンタクト
ゴ ム	ハイ コンタクト 3000G	ハイ コンタクト	ハイ コンタクト 3000G	ハイ コンタクト	ハイ コンタクト 3000G	コンクリ メント	ビニル用	ハイ コンタクト 3000G
ビ ニ ル	ビニル用	ビニル用	ビニル用	ビニル用	ビニル用	コンクリ メント	ビニル用	
発 包 スチロール	コンクリ メント	コンクリ メント	コンクリ メント	コンクリメ ントホワイト	コンクリ メント	コンクリメ ントホワイト	※接着するものの両面に、 接着剤をぬり、はり合わせ ておし付けておくと、24時間かたまり ます。	
硬 質 プラスチック	ハイスーパー ハイ コンタクト	コンクリ メント	ハイ スーパー 3000G	ハイスーパー ハイ コンタクト	ハイスーパー ハイ コンタクト 3000G	※接着の前には、付けようとするものの表面を平らに し、汚れを落としておきます。		
水 化 粧 板	ハイスーパー ハイ コンタクト	コンクリメント ハイスーパー ハイコンタクト	ハイ スーパー	コンクリメント ハイスーパー ハイコンタクト	※セメダインホワイト・木工用ボンドは、木工用の接着剤です。 使うときは、白色をしていますが、乾くと透明になり、接着して から、のこぎりで切ったり、かんも使えます。接着剤がはみだ したり、いらない所に付いてしまっても、布をぬらしてふけば、 かんたんに取ることができます。			
ガ ラ ス	ハイスーパー 3000G	ハイ スーパー	ハイ スーパー 3000G					
陶 磁 器	ハイスーパー コンクリ メント	ハイスーパー コンクリメント						
金 属	ハイスーパー 3000G	※ここに示めしているのは、商標「セメダイン」をもとにしています。 接着剤を使用するときは、必ず使い方を読んでから使用しましょう。						

## ⑤ 紙工作そのほかのくふう

◎ 紙をおって



◎ 紙をまるめて



◎ おる・まるめる・切りひらくなど



◎ 切りこみを入れて



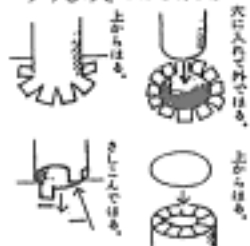
◎ 切りこみを入れて、くみ立てる。



◎ 紙をまるめて動物を作る。



ノリしろをつける方法。



◎ 2つおりを使って動物を作る。



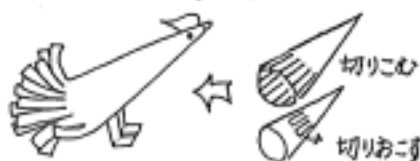
◎ かごねて花を作る。



◎ 2つおりを使って魚を作る。



◎ 紙をまるめて鳥を作る。



◎ おりまげる・あむ・まげる



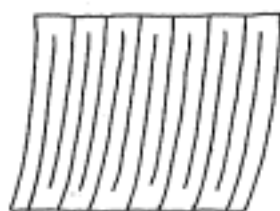
◎ おって、へビを作る。



ハサミとカッターナイフのトレーニング

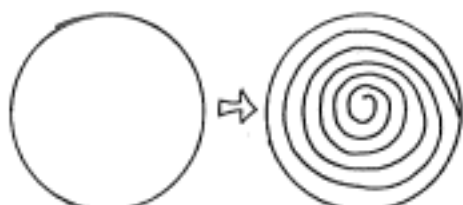
ハサミ

その① ひも作り



長いひもを作ろう。  
(基本姿勢で)

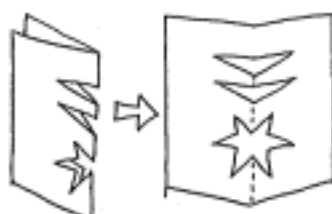
その② 円作り (コンパスを使う。)



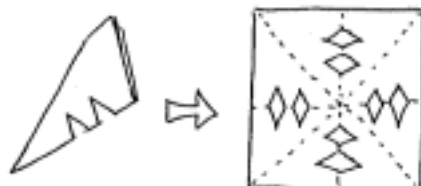
曲線を切ろう。  
(線をまわしながら)

らせんにしよう。

その③ まじり作り



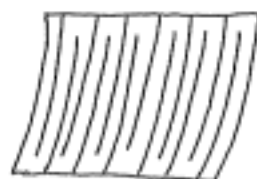
まずは、2つ折りで



今度、好きなように折って  
工夫

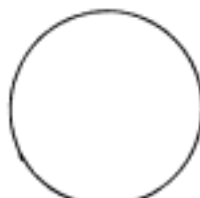
カッターナイフ

その① ひも作り



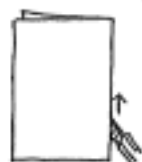
基本の持ち方と姿勢で  
(刃の出しどあい、角度)

その② 円作り (コンパスを使う。)



カッターマットの上で紙を動かしながら

その③ 2つ折りを切る

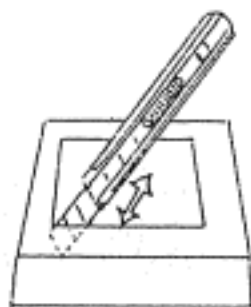


刃を少し長くして  
ななめにおしだすように。

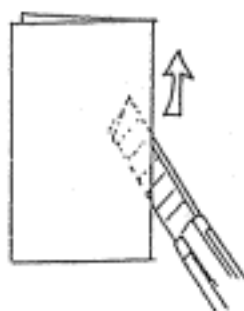
その④ 折りすじつけ



刃を反対に向け、立てて引く。



箱をくりぬくときは、  
カッターナイフをつき  
さして、刃をななめに  
してのこぎりで切るよ  
うにするとよい。



2つ折りを切るときは、  
刃を少し長めにして、  
刃をななめに押し  
出すようにして切ると  
よい。



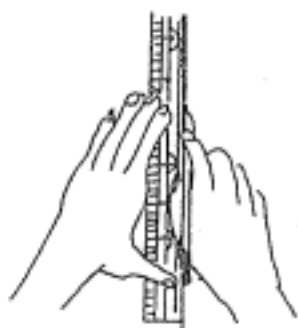
紙をかさねて同じ形を切り  
ぬくときは、  
ゼムクリップなどで紙を固  
定して、形がずれないように  
するとよい。

お  
折りすじをつけるときは、



カッターナイフを切るときと反対に向け、切れ刃が  
むこうを向くようにして、カッターナイフを立てて、刃先  
を紙に当てて軽く引く。

まっすぐ切るときは、



<sup>じょうぎ</sup>  
定規をあてて切る。

(ものさし)

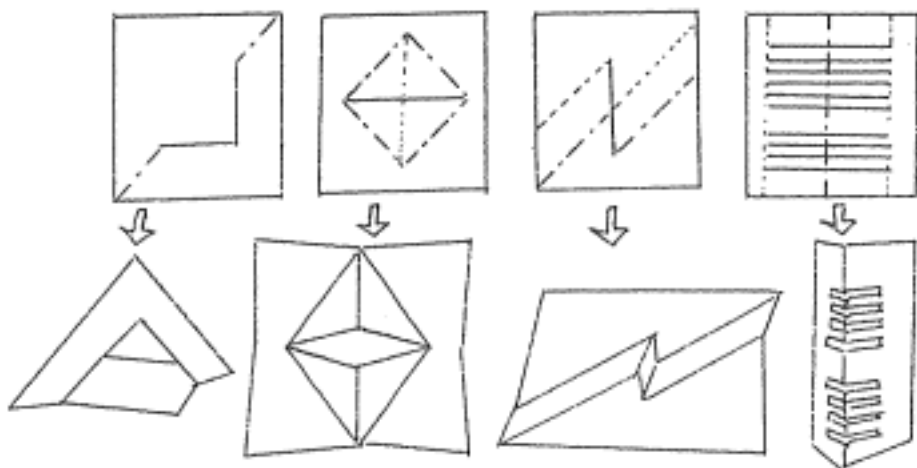
- プラスチック製や竹製のものさしでは、刃で割れたり、  
きずついたりするので、スチール製定規を使用する。
- 切れるまで、左手でしっかり定規をおさえる。

④ 刃を折るときは、備えつけの用具で折る。

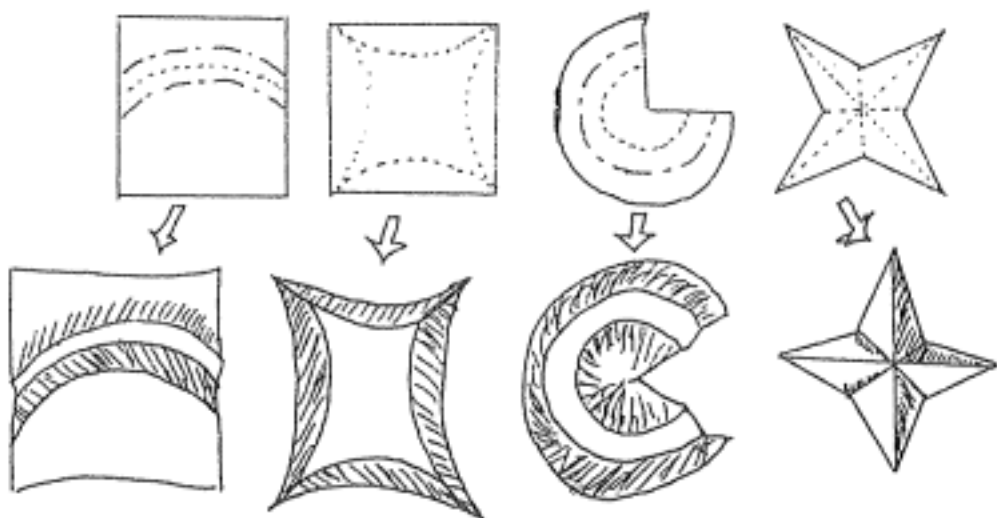
- 刃を出しすぎると、折れた刃がとんでけがをすることがある。
- 折った刃は、一括保管して処理する。

紙は、折り方やまるめ方を工夫すれば、じょうぶな立体になる。

○ 紙は、切りこみの入れ方で、いろいろ変化させることができる。



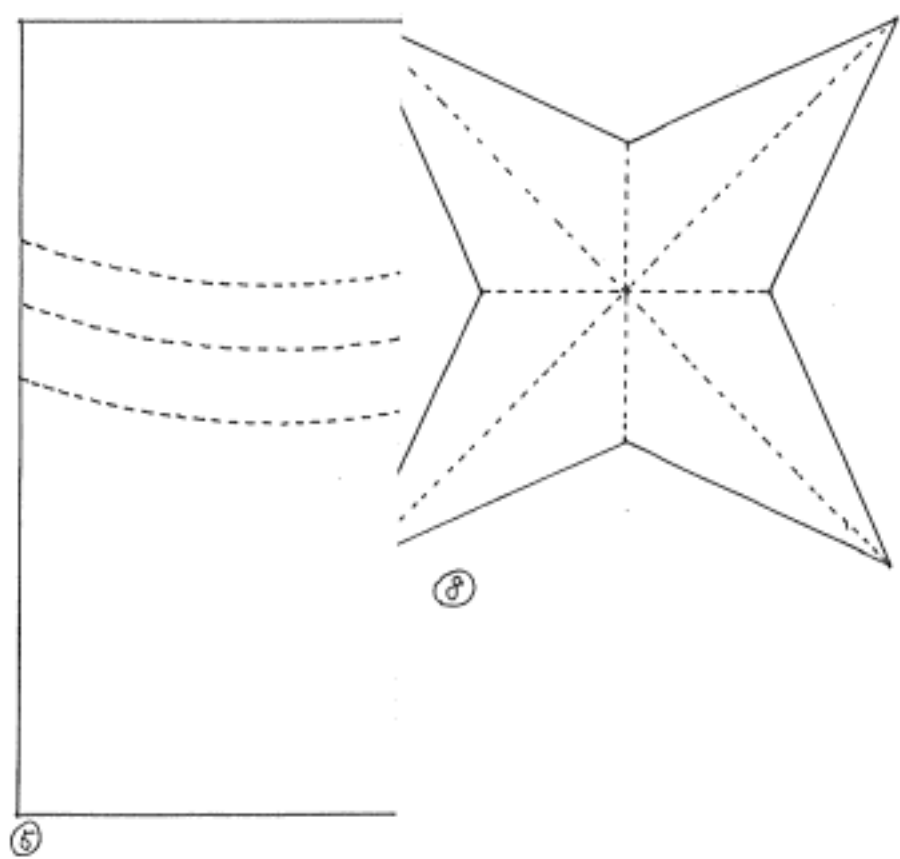
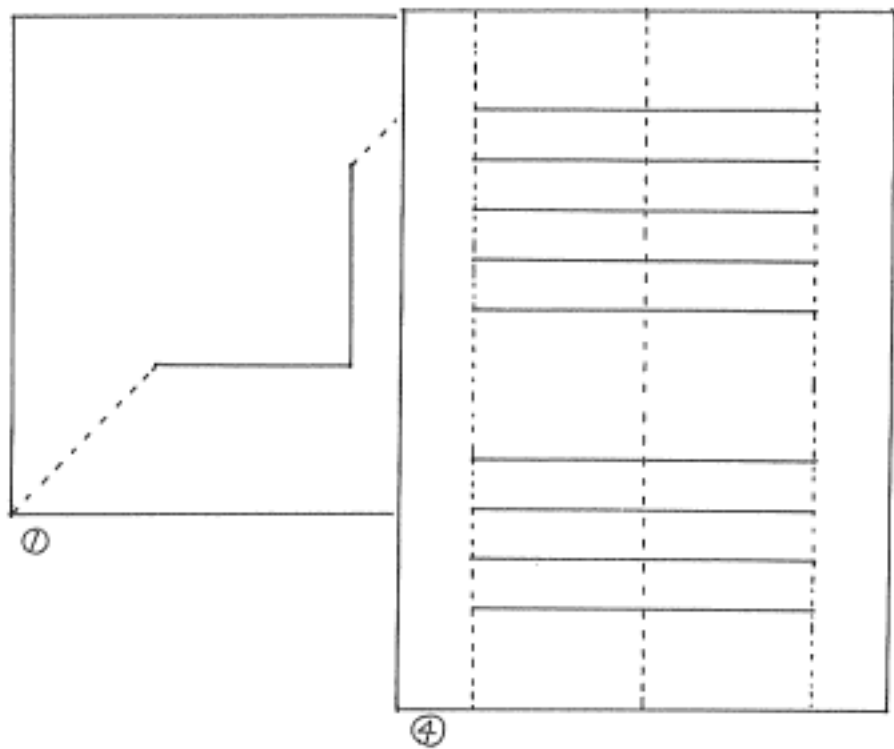
○ 紙は、折り線のゆるいや折りにむかしよによって、形に変化をあたえることができる。



※ その他、いろいろ工夫してみよう。









デザイン・工芸領域における  
総合的カリキュラムの作成

学校名 苫小牧市立明倫中学校  
氏名 吉田とし子

1. はじめに

「新人類」「異星人」などと大人達から言われる現代の子ども達は、幼児期から造形的にも画一化された環境の中で育てられてきている。すっぽりと自然の懐に包まれて、木の枝を折り、泥だらけになって、遊ぶ材料を発見し、自分の手でそれを創り出した生活は、もうふた昔も前のこととなってしまった。

小中学校の図工、美術のカリキュラムを見ても『自然のもの、身近材料を生かして創る』という内容が少なく、セット教材による、かなり大人が手を加えたものを与えられ、あまり苦勞せずに一見美しいものが出来上がっている。

このような環境の中では、創造性を育むことは、難しいし、まして自然を深く理解し、自己を抑制したり、調和させる高い精神は、育ちにくい。これら社会の成熟化や進展、科学技術の進歩に伴い欠落してしまったものを、取り戻すためにも、美術教育を、もっと子どもの生活体験として捕らえ、日常化しなくてはならないと考える。特にデザイン・工芸領域では、自分の生活の表現としての「ものをつくる」過程で、自分の「もの」との関係を主体的に考える力や態度を育て、さらに、その表現活動の実体験の中で感じ取ったものに基づいた「鑑賞」をすることで、次の表現をより高めたり、深めたりする思考力や意欲を育てたい。

以上のようなことを考えながら、今までの自分自身の実践を反省し、デザイン・工芸領域での題材を整理して、前期（4月～9月）を通して継続的に取り組めるカリキュラムを作成し、実践しているところである。

2. 実践内容 — 1学年前期指導計画（デザイン、工芸） —

月	時	氏 導 内 容	留意事項・材料・用具
5 月	.5	デザインの心 自分の生活を振り返ってデザイン に対する関心を高めさせる。	・筆箱、ハンカチなど を取り上げて
	1	色彩についての知識 色の三要素とその組織的な関係 寒暖、軽重など色の感じを理解さ せる。	・教科書、配色パネル ・いろ紙（26色）
	.5	分類 有彩色と無彩色、三原色から12 色相環へ、寒・暖・中性・軽・重 別にいろ紙を使って分類させる。	・スケッチブック ・はさみ ・糊 ・いろ紙
	4	配色練習 類似色や対照色での配色の調和や 表したい感じを考え意図的に、 配色させる。（4色のいろ紙、等 分割し色を入れ替え構成）	・大きさ12×12cm ・技術的な差をなくす ために一定時間内に 何点作成してもよい ことにした
1	鑑賞・評価		



6 月	5	制作意図に従い系統別に表示させる。受けた感じを発表させる。 形成練習（平面）	・黒板に掲示の準備をしておく
	6	自然物をもとに、その特長を生かし単純化・強調・構成の工夫をし新鮮な形を形成させる。 配色計画を立て意図的な配色をさせる。	・イメージとして定着している身近な植物（果物、花、野菜など）をもとにする。 ・カッター ・はさみ ・糊 ・いろ紙 ・カッティングシート ・定規 ・コンパス ・色画用紙
7 ・ 8 月	1	鑑賞・評価 全員の作品を掲示し、制作意図を発表させ、それぞれの作品の良さを味あわせる。 自己評価カード記入 美しい、おもしろいと感じた作品3点を選ばせる。	
		生活化 全員で評価したベスト5を美術室に、残りは、学校に掲示環境美化に役立てさせる。 クレヨン染めを紹介しデザインした形を即、生活の中で生かせることを知らせる。	・木綿の布・生徒作品 ・クレヨン・アイロン
	10	形成練習（立体・工芸品として） 動物をもとに用途に応じた形を追求させ、日用品として使えるものをつくらせる。 日本の伝統工芸である「張り子」について知らせる。	・家庭で使われている動物をもとにしたデザインの日用品を展示しておく。 ・図書室を利用し、写真集、図鑑より資料を採らせる。 ・過年度生徒作品 ・スケッチブック
	(2)	① デッサンしながら構想を練らせる。	
		② 単純化、強調をしながら用途に応じた形を追求させる。	
	(1)	③ 制作計画を立てさせる。	・材料、彩色も含めた計画にさせる。
	(4)	④ 油粘土で原形をつくらせ無理のない形に修正を加えさせる	・色鉛筆 ・油粘土
		⑤ 和紙の特徴を知らせ張り子を完成させる。	・和紙・糊・カッター ・身近材料各種
	(2)	⑥ 彩色・装飾・塗装をさせる。	・ポスターカラー
		⑦ 完成作品にネーミングさせる	・水性ニス ・筆
9 月	(1)	鑑賞・評価 各自に完成作品を掲示させながら制作意図・工夫点などを発表させる。それぞれの作品のおもしろさや、美しさを味あわせる。 学校祭で展示させる。 生活の中で役立たせる。	・文化祭の展示準備は教師主導で時間に余裕が出来た生徒にも参加させる。

—意欲を高める美術科の指導—

～生徒指導の機能を生かして～

学校名 社警町立社警中学校  
氏名 本多正機

1. はじめに

今、学校教育現場は生涯学習社会体系の中で自らの役割を理解し、学校は何をしなければならないのか、何を重点に取り組めば良いのかを自覚することが重要である。特に小中学校においては生涯学習者としての基礎的能力として重視される学ぶ意欲、学び続ける意志・態度の育成と、他者を尊重し人間関係の調整を行うことの出来る能力の育成を進めなければならないと考える。これらの課題を達成するためには、学校教育全体の中に生徒指導の機能を浸透させ、児童生徒の意欲を高めることが重要であるが、特に教科書指導の場において重視しなければならないという共通理解に立ち、昭和60・61年（第1次）、昭和62・63年（第2次）の校内研究を設定し、各教科における学習の個別化、生徒指導の機能の生かし方について研究に取り組んできた。

2. 教科指導における生徒指導の機能

一人ひとりの生徒に応じた学習活動を展開し、さらに生徒同士、生徒と教師の心の暖かい触合いの人間関係を成立させることが「今日の授業は楽しかった」「今日の授業はよくわかった」と云う「わかる授業」につながるものとする。

(1) 授業実践における教師の行動レベル

- ① 生徒の感情を受容し、考えていることを自由に発表できるようにすること
- ② 評価・批判的でなく、生徒の考えをよく聞くこと
- ③ 個人として認め、欠点や弱点を克服できるよう援助すること
- ④ 生徒を信頼し、教師も素直な態度で接すること
- ⑤ KR活動を重視する

KRとは、Knowledge Of Results（結果についての理解）の略称であり、生徒の応答に対して、それが正しいとか、誤っている等と応じること、いわゆる生徒の応答に対する教師の反応である。

(2) 授業における教師の具体的言動

- ① 氏名を呼んで指名する
- ② 生徒の応答を板書する（出来たら記名する）
- ③ 発問は知的なものだけでなく感性や経験に訴え、誰でもが応答可能なものを工夫する。
- ④ 教師の血の通った言葉で応答する  
承認-----「うん、そうだね」「わかったね」「なるほど」  
否認-----「ウ～ン」「まてよ」「皆よく考えてみてよ」  
喚起-----「あとは？」「他にないかな？」「これだけかな？」  
称賛-----「よくできたね」「よく考えたな～」「素晴らしい意見だね」  
激励-----「まだまだ出来るね」「もう少しだな～」「ここをもっと工夫したら？」  
制止-----「しっかり考えてよ」「もう一度考えてごらん」「どうしかな？」  
指示-----「〇〇さん△して下さい」「全員で△して下さい」

3. 美術科における具体的手立て



- (1) 授業前の手立て
- ① 教材研究-----題材による難易度を考慮し、生徒の実態に応じた授業の構成をする。  
単位時間毎に課題を明確にし、生徒の取り組むポイントを明らかにする。
  - ② 授業中の手立て
    - ① 発問、指名-----個人差に応じた発問・指名を考慮し必ず応答を心掛ける。
    - ② 机間巡視-----この時間を大切に、遅進児や悩んでいる生徒に適切なアドバイスを与え出来るだけ優れた点を深めて、全員の前で激励・称賛する。
    - ③ 自己評価-----美術カードを使用して授業終了前に自己評価をさせ、自己反省や次時の作業の目安を持たせる。

④ 評価記録  
カードの活用

下位目標や学習規律などについての評価を行い、次時の個別指導や単元の評価・評定等に生かす。

美術学習カード		氏名( )				
題材	課題					
正決したい点						
5/5	各種の技法式や制作の仕方が分かりましたか	5	4	3	2	1
-	ドライポイントの技法、色紙の活用が分かりましたか	5	4	3	2	1

(3) 授業後の手立て

① 制作の区切りごとに、評価用のスタンプを使用し、簡単なコメントも記入し次時の個別の課題や留意すべき点などの指示や称賛、励ましの言葉を与える。

観点	観点別学習状況										学習態度(別紙)				
	表現の能力	鑑賞の能力	制作の能力	基礎知識	制作の計画	制作の進捗	制作の完成	制作の発表	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り
下位目標	制作の計画	制作の進捗	制作の完成	制作の発表	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り	制作の振り返り
氏名															

② 作業の遅れている生徒については、出来るだけ家庭課題にせず放課後美術室を開放して、個別指導を行う。



# 第40回 全道造形教育研究大会

## 実行委員会の組織

運営委員長	長	(大会副委員長)	川池	上本	良	宏
実行委員長	長		池内	本潟	光	三
副実行委員長	長		片	潟		尚
副実行委員長	長		内	桐		勉
事務局次長	長		片	木		雄
事務局次長	長		鈴	村		泰
事務局次長	長		野	月		猛
会場部部長	長		大	木		光
次会場部部長	長		鈴	子		正
事業部部長	長		金	沢		晃
次事業部部長	長		長	田		一
庶務部部長	長		吉	村		泰
次庶務部部長	長		野	江		茂
会計部部長	長		鴻	藤		夫
次会計部部長	長		佐	林		子
研究部部長	長		小	藤		毅
次研究部部長	長		佐	林		郎
研究紀要部部長	長		徳	藤		治
次研究紀要部部長	長		宮	田		彦
			佐	森		彦
			中	森		博
			森	沼		卓
			沼	田		

## 紙フェスティバル実行委員

内	潟	光	尚	佐	藤	公	毅
宮	森	俊	治	徳	田	幸	郎
野	村	道	泰	鈴	木	和	雄

## 苫教研造形部会役員

部	会	長	片	桐	勉
副	部	長	小	林	子
幹	会	長	宮	森	治
事	事	長	内	潟	尚
理	事	事	中	田	彦
理		事		畑	



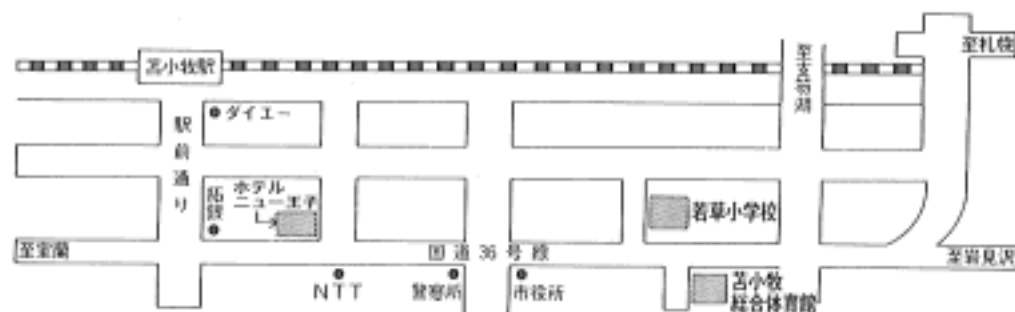
## ●大会役員

大会長	金井 秀男	(道造形連盟委員長)
副大会長	寺本 吉明	(道造形連盟副委員長)
副大会長	庄 栄一	(道造形連盟副委員長)
副大会長	田辺 康夫	(道造形連盟副委員長)
道造盟事務局	佐々木理温	(道造形連盟事務局長)
道造盟研究部	富田 泰	(道造形連盟研究部長)

## ●苫小牧大会 各部署員名簿

会場	坂井寿美子 屋野 文男 田中恵美子 阿部 幸夫	若草小 若草小 東 小 大成小	前川香奈子 伊藤多恵子 廣瀬 美佳 藪下由美子	若草小 若草小 勇弘中 沼 小	谷川 永幸 藤沢紀世安 鮮田 利生 田嶋 明	美園小 豊川小 弥生中 豊川小
亭業	伊藤 秀雄 久保 聡子 佐藤 安茂	泉野小 泉野小 啓明中	神 国朝 樋渡 敏照 島田 信子	緑 小 樽前小 美園小	北条 祐子 武田 潔 名須川公夫	明徳小 緑 小 緑 小
庶務	神杉 靖子 澤田石美幸 遠藤 涼子	沼 小 大成小 大成小	木村 好 及川ひとみ 手嶋 和子	美園小 大成小 大成小	松橋 克己	山なみ
会計	小松 和子 草野真知子 徳弘 孝子	泉野小 泉野小 北光小	田沢美佐子 遠藤 秀二 青葉不二男	日新小 啓明中 日新小		
研究	大村 昇二 藤原 誠司 千葉世津子 吉田とし子	錦岡小 澄川小 清水小 明倫中	安瀬 恵子 吉本登志枝 苫米地昭彦 坂東 軍治	大成小 余井小 緑 小 啓北中	阿部 建治 千葉 恵一 青木 幸浩 斎藤美穂子	緑 小 緑 小 東 小 余井小
紀要	佐藤 邦子 丹 昂 川村 友子	錦岡小 豊川小 豊川小	安住 武志 橋尾 仁吉 林 三郎	豊川小 西 小 澄川小	山日 忠 佐藤 真幸 北山 英昭	啓北中 光洋中 勇弘小

## ●会場案内図



第40回  
全道造形教育  
研究大会

苫小牧大会紀要

平成2年7月31日発行

発行 第40回全道造形教育研究大会  
苫小牧大会編集 鈴木和雄

編集 苫小牧大会研究紀要部

印刷 あさひ印刷株式会社 苫小牧市幸町2丁目3-12



●主催

北海道造形教育連盟

●後援

北海道教育委員会

北海道教育庁胆振教育局

苫小牧市教育委員会

苫小牧市小学校校長会

苫小牧市中学校校長会

苫小牧市教育研究会

胆振造形教育研究会

苫小牧私立幼稚園連合会

紙フェスティバル実行委員会

北海道新聞社

苫小牧民報社

